

令和8年度

# 青森県総合社会教育センター

## 主要事業一覧





# 目 次

1. 令和8年度研修事業一覧	1
2. 令和8年度事業概要	3
生涯学習・社会教育関係職員研修講座	
（県総合社会教育センターを会場とした研修）	4
生涯学習・社会教育関係職員研修講座	
（市町村を会場地とした研修）	6
生涯学習・社会教育関係職員研修講座（伴走型支援）	9
地域活動講座～パワフルAOMORI！創造塾～	12
高校生地域活動講座～チャレンジAOMORI！未来塾～	14
キャリア形成支援講座	
～大学生と青森の未来・自分の未来を“カタル”～	16
高校生スキルアッププログラム推進事業	18
地域と学校をつなぐキャリア教育推進事業	20
社会参加活動推進講座	21
あおり家庭教育アドバイザー養成講座（東青地区）	22
あおり家庭教育アドバイザー養成講座（上北地区）	24
あおり家庭教育アドバイザーフォローアップ研修	26
家庭教育相談事業	27
家庭教育支援普及啓発事業	27

3. 令和7年度事業報告	28
生涯学習・社会教育関係職員研修講座（センター研修）	29
生涯学習・社会教育関係職員研修講座（地区研修）	37
生涯学習・社会教育関係職員研修講座 伴走型支援	43
パワフルAOMORI！創造塾	44
青森で生きる未来人財育成事業（高校生地域活動促進事業）	56
青森と自分の未来を“カタル”！「キャリアサポ」事業	60
高校生スキルアッププログラム推進事業	70
地域と学校をつなぐキャリア教育研修会	71
地域に根ざしたキャリア教育推進フォーラム	72
ボランティア担当職員研修講座	73
あおもり家庭教育アドバイザー養成講座	74
あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ研修	80
家庭教育相談事業	81
家庭教育支援動画等制作普及事業	82

## 【令和8年度研修事業一覧】

### 1. 社会教育関係職員等研修

講座名		期日	会場	頁
生涯学習・社会教育関係職員 研修講座 (県総合社会教育センターを 会場とした研修)	テーマ1	4月28日(火)	県総合社会教育センター	4
	テーマ2	6月 5日(金)		
	テーマ3	6月26日(金)		
	テーマ4	7月17日(金)		
	テーマ5	11月 4日(水)		
	テーマ6	11月12日(木)		
	テーマ7	12月 3日(木)		
	テーマ8	2月19日(金)		
生涯学習・社会教育関係職員研修講座 (市町村を会場地とした研修)		令和8年6月下旬～ 令和9年3月上旬	—	6
生涯学習・社会教育関係職員研修講座 伴走型支援		通年	—	9

### 2. 人財育成

講座名		期日	会場	頁
地域活動講座～パワフル AOMORI！創造塾～	第1回	7月11日(土)	県総合社会教育センター	12
	第2回	8月29日(土)		
	第3回	10月 3日(土)	鶴田町地域活性化支援センター「TSURUTA LABO」	
	第4回	10月25日(日)	浅虫がっちゃんこセンター	
	第5回	11月14日(土)	県総合社会教育センター	
	第6回	12月 5日(土)		
高校生地域活動講座～チャレ ンジAOMORI！未来塾～	第1回	7月25日(土)	県総合社会教育センター	14
	第2回	7月26日(日)	県総合社会教育センター	
	第3回	8月 9日(日)	コミュニティカフェ ハピたのかふえ	
	第4回	8月23日(日)	下北文化会館	
	第5回	9月 6日(日)	黒石市北地区センター	
	第6回	11月 1日(日)	種差海岸インフォメーションセンター	
	第7回	12月13日(日)	県総合社会教育センター	
地域と学校をつなぐ キャリア教育研修会	未定	未定	未定	20
社会参加活動推進講座		7月 3日(金)	県総合社会教育センター	21

### 3. 家庭教育支援

講座名		期日	会場	頁
あおもり家庭教育 アドバイザー養成講座 (東青地区)	第1回	6月11日(木)	県総合社会教育センター	22
	第2回	7月23日(木)		
	第3回	8月28日(金)	認定こども園油川幼稚園	
	第4回	9月10日(木)	県総合社会教育センター	
	第5回	10月14日(水)		
	第6回	11月11日(水)		
あおもり家庭教育 アドバイザー養成講座 (上北地区)	第1回	6月24日(水)		三沢市国際交流教育センター
	第2回	7月27日(月)		
	第3回	8月19日(水)	一時預かり専門託児所Joyful pop	
	第4回	9月24日(木)	三沢市国際交流教育センター	
	第5回	10月26日(月)		
	第6回	11月18日(水)		
あおもり家庭教育アドバイザーフォローアップ研修		9月27日(日)		県総合社会教育センター

**令和8年度**

**事業概要**

# 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 (県総合社会教育センターを会場とした研修)

## 1 趣 旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図るために、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

## 3 対 象

市町村教育委員会の生涯学習・社会教育担当職員及び公民館職員等（指定管理者も含む）

4 定 員 30名程度

5 申込締切 各開催期日の1週間前まで

## 6 研修内容

### 【社会教育の基本理念を学ぶ研修】

社会教育と生涯学習の目的や意義を学ぶ講座。地域社会で学びの場が求められる理由や社会教育の重要性について分かりやすく説明。

新任職員や社会教育の基礎を学びたい方におすすめの2講座。

ア 開催日時	4月28日（火）	10:00～15:00
イ 会 場	第2教材開発室	
ウ 内 容	【講義・演習】「社会教育のきほんのき」 講師 弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英	

ア 開催日時	2月19日（金）	10:00～15:00
イ 会 場	第2教材開発室	
ウ 内 容	【講義・演習】「社会教育がつなぐ地域づくり」 講師 弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英	

### 【社会教育の多様なニーズへ対応するための研修】

社会教育が直面する多様化するニーズに対応するための専門的な知識や視点を学ぶ講座。地域社会や現場で求められる課題解決力を養い、実際の活動に役立つ具体的な方法を分かりやすく解説。現場での実践力を高めたい方や、社会教育の発展に寄与したい方におすすめの6講座。

ア 開催日時	6月5日（金）	10:00～15:00
イ 会 場	第10研修室	
ウ 内 容	【講義・演習】「効果的なチラシ作成のポイント」 講師 ディーシーティーデザイン 代表 蝦名 晶子	

ア 開催日時	6月26日（金）	10:00～15:00
イ 会 場	第2教材開発室	
ウ 内 容	【講義・演習】 「ゆるやかなつながりからはじめる地域づくりの実践」 講師 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹	

ア 開催日時	7月17日(金) 10:00~15:00
イ 会場	第2教材開発室
ウ 内容	【講義・演習】「次代の地域を担う若者の育成」 講師 大正大学 地域創生学部 教授 東京大学 名誉教授 牧野 篤

ア 開催日時	11月4日(水) 10:00~15:00
イ 会場	第10研修室
ウ 内容	【講義・演習】「生成AI活用アイデアと社会教育での実践方法」 講師 エイチピースタイリング 代表 高森 三樹

ア 開催日時	11月12日(木) 10:00~15:00
イ 会場	第2教材開発室
ウ 内容	【講義・演習】「共に学び支えあう社会教育の実践」 講師 文教大学人間科学部 教授 青山 鉄兵

ア 開催日時	12月3日(木) 10:00~15:00
イ 会場	第2教材開発室
ウ 内容	【講義・演習】「防災の基本理念と地域の役割」 講師 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子

# 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 (市町村を会場地とした研修)

## 1 趣 旨

市町村における研修の活性化を図るため、外部講師による出前講座を市町村のニーズに応じて開催し、地域課題の把握及びその解決に向けた体制の構築を推進する。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

## 3 申 込 者

市町村教育委員会、公民館、地域学校協働活動及びCSに関わる団体、学校等

## 4 研修内容

テーマ	内 容
1	「生涯学習・社会教育関係職員の役割」 講師 弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英
2	「地域づくりにおける社会教育の重要性」 講師 弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英
3	「効果的なチラシ作成のポイント」 講師 ディーシーティーデザイン 代表 蝦名 晶子
4	「ゆるやかなつながりからはじめる地域づくりの実践」 講師 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹
5	「次代の地域を担う若者の育成」 講師 大正大学 地域創生学部 教授 東京大学 名誉教授 牧野 篤
6	「生成 AI 活用アイデアと社会教育での実践方法」 講師 エイチピースタイリング 代表 高森 三樹
7	「共に学び支えあう社会教育の実践」 講師 文教大学人間科学部 教授 青山 鉄兵
8	「防災の基本理念と地域の役割」 講師 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子
9	「地域における家庭教育支援」 講師 八戸学院大学短期大学部こども教育学科 教授 差波 直樹
10	「地域学校協働活動の推進」 講師 秋田大学教育文化学部 非常勤講師 皆川 雅仁

## 5 申込方法等

- (1) 申 込 方 法 : 別紙様式「出前講座申込書」を作成の上、申込先へメールで提出
- (2) 実 施 期 間 : 令和8年6月下旬～令和9年3月上旬
- (3) 申 込 期 限 : 4月30日(木)
- (4) 実施の可否 : 5月下旬に連絡

※実施回数は10団体を上限とし、それ以上の依頼があった場合は、条件に基づき優先順位を付けて選定

- (5) 申込先及び問合先 : 青森県総合社会教育センター

〒030-0111 青森県青森市大字荒川字藤戸119-7

電話 017-739-1270 E-mail E-SHAKYO@pref.aomori.lg.jp

## 6 経費負担

申込者 : 会場使用料及び参加者募集に関する経費

県 : その他の全ての経費

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

## 出前講座（市町村を会場地とした研修）申込書

提出日：令和 年 月 日

市町村名				
第1希望	実施形態	<input type="checkbox"/> 単独実施		
		参加予定： 人	主な職名：	
		<input type="checkbox"/> 合同実施		
		参加市町村名：	参加予定： 人	主な職名：
		参加市町村名：	参加予定： 人	主な職名：
		参加市町村名：	参加予定： 人	主な職名：
	講座名	テーマ（ ）「 」		
	講座の内容 ※特に希望がある場合は記入してください。			
	実施希望日時	第1希望	令和 年 月 日（ ）	： ～ ：
		第2希望	令和 年 月 日（ ）	： ～ ：
実施場所				
実施のねらい・理由等				
第2希望	実施形態	<input type="checkbox"/> 単独実施		
		参加予定： 人	主な職名：	
		<input type="checkbox"/> 合同実施		
		参加市町村名：	参加予定： 人	主な職名：
		参加市町村名：	参加予定： 人	主な職名：
		参加市町村名：	参加予定： 人	主な職名：
	講座名	テーマ（ ）「 」		
	講座の内容 ※特に希望がある場合は記入してください。			
	実施希望日時	第1希望	令和 年 月 日（ ）	： ～ ：
		第2希望	令和 年 月 日（ ）	： ～ ：
実施場所				
実施のねらい・理由等				
担当者	所 属			
	職名・氏名			
連絡先	電話番号			
	メールアドレス			

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

## 出前講座（市町村を会場地とした研修）申込書

提出日：令和 ○年 ○月 ○日

市町村名		〇〇市		
第1希望	実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 単独実施		
		参加予定：20人	主な職名：社会教育担当職員	
		<input type="checkbox"/> 合同実施		
		参加市町村名：	参加予定：人	主な職名：
		参加市町村名：	参加予定：人	主な職名：
		参加市町村名：	参加予定：人	主な職名：
	講座名	テーマ(10)「地域学校協働活動の推進」		
	講座の内容 ※特に希望がある場合は記入してください。	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のそれぞれの役割について講義・演習をしてほしい。		
	実施希望日時	第1希望	令和○年7月○日(○)13:30～16:30	
		第2希望	令和○年8月○日(○)13:30～16:30	
実施場所	〇〇市総合学習センター			
実施のねらい・理由等	コミュニティ・スクールの基本的な概念や理念を学び、地域社会と学校が連携する意義を理解する。			
第2希望	実施形態	<input type="checkbox"/> 単独実施		
		参加予定：人	主な職名：	
		<input checked="" type="checkbox"/> 合同実施		
		参加市町村名：〇〇市	参加予定：10人	主な職名：市民
		参加市町村名：〇〇町	参加予定：10人	主な職名：町民
	参加市町村名：〇〇村	参加予定：10人	主な職名：村民	
	参加市町村名：	参加予定：人	主な職名：	
	講座名	テーマ(9)「地域における家庭教育支援」		
	講座の内容 ※特に希望がある場合は記入してください。	地域社会による家庭教育支援の役割を学び、保護者が孤立せず安心して相談や交流できる環境づくりや具体的な支援方法を考える内容にしてほしい。		
	実施希望日時	第1希望	令和○年9月○日(○)13:30～16:30	
第2希望		令和○年10月○日(○)13:30～16:30		
実施場所	〇〇町立〇〇公民館			
実施のねらい・理由等	保護者が安心して相談や交流できる環境を築くため、地域社会による家庭教育支援の役割を理解し、必要な知識を身につける。			
担当者	所属	〇〇市教育委員会 生涯学習課		
	職名・氏名	社会教育主事 〇〇 〇〇		
連絡先	電話番号	〇〇〇-△△△-□□□□		
	メールアドレス	E-SHAKYO@pref.aomori.lg.jp		

# 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 (伴走型支援)

## 1 趣 旨

市町村の取組をサポートするため、市町村等の職員とともに課題解決に取り組む、伴走型の支援を行う。

## 2 主 催 青森県総合社会教育センター

## 3 申 込 者

市町村教育委員会、公民館、地域学校協働活動及びCSに関わる団体、学校等

## 4 伴走型支援の内容等

- (1) 受付期間：通年
- (2) 相談対応：随時
- (3) 依頼方法：伴走型支援依頼申込書を提出
- (4) 支援内容：当センターが実施する事業等のノウハウや専門職としての知見及び経験に基づいた指導・助言・相談対応等を行う。  
(例)・事業の企画・立案についての相談
  - ・講師選定に係る相談
  - ・ファシリテーターに係る指導・助言
  - ・研修会等への講師または運営支援者としての職員派遣 等

## 5 伴走型支援の基本的な流れ

- (1) 「伴走型支援依頼申込書」の提出
- (2) 内容確認・調整  
「伴走型支援依頼申込書」をもとに、電話・メール・面談等により、相談内容をヒアリングする。派遣希望の場合は日程調整を行う。
- (3) サポート  
内容、必要に応じ、職員派遣、情報提供、助言等を行う。

## 6 申込方法等

- (1) 申込方法：別紙様式「依頼申込書」を作成の上、メールで提出
- (2) 申込先及び問合せ先：  
青森県総合社会教育センター  
〒030-0111 青森県青森市大字荒川字藤戸 119-7  
電話 017-739-1270 E-mail E-SHAKYO@pref.aomori.lg.jp

## 7 その他 当センター職員の訪問等に係る旅費は県が負担する。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 伴走型支援依頼申込書

提出日：令和 年 月 日

1	担当者	所 属	
		職名・氏名	
2	連絡先	電 話 番 号： メールアドレス：	
3	希望する 支援の方法等 ※該当に <input checked="" type="checkbox"/> (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 事業の企画・立案についての相談 <input type="checkbox"/> 講師選定に係る相談 <input type="checkbox"/> ファシリテーターに係る指導・助言 <input type="checkbox"/> 研修会への職員派遣 <input type="checkbox"/> その他→「4 相談案件」に記入してください。	
4	相談案件		
5	支援してほしい 具体的な内容		
6	希望日時	第1希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :
		第2希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :
		第3希望	令和 年 月 日 ( ) : ~ :
		※職員派遣を希望する場合は、日時を記入してください。	
7	その他		

※ 相談内容に係る実施要項等があれば添付してください。

**生涯学習・社会教育関係職員研修講座  
伴走型支援依頼申込書**

提出日：令和 ○年 ○月 ○日

1	担当者	所 属	〇〇市教育委員会 生涯学習課
		職名・氏名	社会教育主事 〇〇 〇〇
2	連絡先	電 話 番 号：〇〇〇-△△△-□□□□ メールアドレス：E-SHAKY0@pref.aomori.lg.jp	
3	希望する 支援の方法等 ※該当に <input checked="" type="checkbox"/> (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 事業の企画・立案についての相談 <input type="checkbox"/> 講師選定に係る相談 <input checked="" type="checkbox"/> ファシリテーターに係る指導・助言 <input type="checkbox"/> 研修会への職員派遣 <input type="checkbox"/> その他→「4 相談案件」に記入してください。	
4	相談案件	〇〇市学校運営協議会の熟議の進め方について	
5	支援してほしい 具体的な内容	※相談したい取組についての現状と課題や目指す状態等  (例) 学校運営協議会が形骸化しており、具体的な課題や目標を明確にし、各メンバーが積極的に意見を出し合える環境を整えるために熟議の仕方について支援してほしい。	
6	希望日時	第1希望	令和 ○年 7月 ○日 (○) 13:30 ~ 16:30
		第2希望	令和 ○年 8月 ○日 (○) 13:30 ~ 16:30
		第3希望	令和 ○年 9月中旬
		※職員派遣を希望する場合は日時を記入してください。	
7	その他	※ご質問等ありましたら、記入してください。	

※ 相談内容に係る実施要項等があれば添付してください。

# 地域活動講座～パワフルAOMORI！創造塾～ (第38期)

## 1 趣 旨

持続可能な地域活動を支える人財を育成するため、活力ある地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進する。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

## 3 対 象

- ・青森県在住で18歳以上の方（1年間を通じて参加できる方）
- ・地域を元気にしたいという想いのある方
- ・ネットワーク形成に協力できる方

4 定 員 20名程度

5 申込締切 6月21日（日）まで

## 6 研修内容

### 第1回

ア 開催日時	7月11日（土） 10:00～16:00
イ 会 場	青森県総合社会教育センター
ウ 内 容	<b>【開講式・オリエンテーション】</b> 進行 県総合社会教育センター職員 <b>【講義・演習】</b> 「自分の地域の『ありたい姿』を考えよう」 講師 浅虫まちおこし応援団がっちゃんこ 代表 八戸学院大学地域経営学部 特任准教授 井上 丹 <b>【情報交換会】</b> 「パワフルカフェ」

### 第2回

ア 開催日時	8月29日（土） 10:00～16:00
イ 会 場	青森県総合社会教育センター
ウ 内 容	<b>【交流会】</b> 「パワフル交流会」 <b>【講義・演習】</b> 「置かれた場所で夢をかなえる ～地方活性化アイドル達の挑戦～」 講師 株式会社樋川自動車／ 有限会社リンゴミュージック 代表取締役 樋川 新一 <b>【情報交換会】</b> 「パワフルカフェ」

第3回

ア 開催日時	10月3日(土) 13:00~16:00
イ 会場	鶴田町地域活性化支援センター「TSURUTA LABO」
ウ 内容	<b>【フィールドワーク・演習】</b> 「もったいないから未来をつくる」 講師 一般社団法人もったいない研究所 代表理事 岡 詩子

第4回

ア 開催日時	10月25日(日) 13:00~16:00
イ 会場	浅虫がっちゃんこセンター
ウ 内容	<b>【フィールドワーク・演習】</b> 「継続的に開催できるイベントを考えよう」 講師 浅虫まちおこし応援団がっちゃんこ 代表 八戸学院大学地域経営学部 特任准教授 井上 丹 <b>【アクションプラン作成】</b> 「アクションプラン発表会資料準備」

第5回

ア 開催日時	11月14日(土) 10:00~16:00
イ 会場	青森県総合社会教育センター
ウ 内容	<b>【アクションプラン作成】</b> 「アクションプラン発表会資料準備」 <b>【講義・演習】</b> 「コントロール可能なアイデアづくり」 講師 一般社団法人 洗練された田舎研究所 代表理事 洗田 研 <b>【情報交換会】</b> 「パワフルカフェ」

第6回

ア 開催日時	12月5日(土) 10:00~16:00
イ 会場	青森県総合社会教育センター
ウ 内容	<b>【発表】</b> 「アクションプラン発表会」 講評者 浅虫まちおこし応援団がっちゃんこ 代表 八戸学院大学地域経営学部 特任准教授 井上 丹 <b>【情報交換会】</b> 「パワフルカフェ」 <b>【閉講式】</b>

# 高校生地域活動講座

## ～チャレンジAOMORI！未来塾～

### 1 趣 旨

主体的に活動する次世代を担う青少年を育成するため、高校生を対象に、地域活動を支える人材等から地域の価値や魅力、活力ある地域づくり等について学ぶ講座を行う。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

### 3 対 象

・本県の高校に在籍している生徒

4 定 員 30名

5 申込締切 6月24日（水）まで

### 6 研修内容

#### (1) 第1回

ア 開催日時	7月25日（土） 10:00～15:00
イ 会 場	青森県総合社会教育センター
ウ 内 容	<p>【開講式・オリエンテーション】 進行 県総合社会教育センター職員</p> <p>【講義・演習】（対面） 「もったいないから未来をつくる」 講師 一般社団法人もったいない研究所 代表理事 岡 詩子</p>

#### (2) 第2回

ア 開催日時	7月26日（日） 10:00～12:00
イ 会 場	青森県総合社会教育センター
ウ 内 容	<p>【開講式】 進行 県総合社会教育センター職員</p> <p>【基礎研修】（対面・オンラインハイブリット） 内容：地域活動に関する基礎知識、フィールドワーク先の講師の説明、フィールドワークの心構え、ウェルビーイングについて、講座をどのように生かすか（めざす姿の共有）、スキルアップについて等</p>

#### (3) 第3回

ア 開催日時	8月9日（日） 13:00～15:00
イ 会 場	コミュニティカフェ ハピたのかふえ
ウ 内 容	<p>【フィールドワーク・演習】（対面：選択） 「地域でつながろう 地域で育てよう」 講師 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子</p>

## (4) 第4回

ア 開催日時	8月23日(日) 13:00~15:00
イ 会場	下北文化会館(仮)
ウ 内容	【フィールドワーク・演習】(対面:選択) 「地域の魅力を発信しよう」(仮) 講師 一般社団法人しもきたツーリズム むつ市地域活性化起業人 ムー・ユーチェン

## (5) 第5回

ア 開催日時	9月6日(日) 13:00~15:00
イ 会場	黒石市北地区センター
ウ 内容	【フィールドワーク・演習】(対面:選択) 「楽しい農業で地域デザイン!」 講師 株式会社 アグリーンハート 代表取締役 佐藤 拓郎

## (6) 第6回

ア 開催日時	11月1日(日) 13:00~15:00
イ 会場	種差海岸インフォメーションセンター
ウ 内容	【フィールドワーク・演習】(対面:選択) 「地域の魅力を可視化してみよう!」 ~まずは自分が感動することから始まる~ 講師 NPO法人 ACTY 理事長 株式会社 ACプロモート 代表取締役 町田 直子

## (7) 第7回

ア 開催日時	12月13日(日) 10:00~15:00
イ 会場	青森県総合社会教育センター
ウ 内容	【開講式・オリエンテーション】 進行 県総合社会教育センター職員  【講義・演習】(対面) 「『よく生きる』ということ」 講師 海猫ふれんず 青森・武術クラブ代表 小田桐 咲

# キャリア形成支援講座

## ～大学生と青森の未来・自分の未来を“カタル”～

### 1 事業目的及び概要

ふるさとに誇りをもち、主体的に行動できる若者を育成するため、研修によって一定のスキルを身につけた大学生が、中学生・高校生とともに生涯にわたる「自分の生き方」について考え、語り合うワークショップを開催し双方のキャリア形成を図る。

### 2 事業内容

#### (1) 大学生への研修会等の開催

〈目的〉

本県の大学生が研修を通して、自分の生き方について考えたり、見直したりするきっかけとする。また、本県の魅力や誇りなどを理解すると同時に、ワークショップにおけるファシリテーション技術を習得する等、社会人として必要なスキルを獲得することを目的とする。

〈事業内容〉

研修名		概要等
基礎研修	基本研修	コミュニケーション、コーチング、ファシリテーション、青森の魅力に関する事項を学ぶ研修
	ワークショップ演習	演習を通じ、気持ちや考えを引き出すための方法についての研修
合同リハーサル研修		ワークショップ運営の一連の流れを確認し、企画のポイントなどを確認する研修 (ワークショップ開催前に実施校ごとに行う)
応用研修		ワークショップの企画・運営に必要なマネジメント力や運営ノウハウを学ぶ研修
企画運営会議		企画運営委員(大学生の代表者)による、ワークショップの企画内容や運営についての意見交換

#### (2) ワークショップの開催

〈目的〉

大学生は研修で学んだ内容を実践する。中学生・高校生はワークショップにおいて、大学生と将来の生き方等について語り合うことにより、自分自身と向き合うきっかけづくりを目的とする。

〈事業内容〉

①時期：夏季… 8月下旬から9月下旬

冬季… 2月中旬から下旬

②対象：青森県内の中学生（義務教育学校は後期課程のみ）、高校生（県立・私立は問わない）

	実施校	実施日	備考
1	五所川原市立五所川原第四中学校	8月25日(火)	
2	八戸西高校	8月27日(木)	
3	弘前南高校	8月31日(月)	
4	八戸工業大学第二高校	9月2日(水)	
5	大鰐町立大鰐中学校	9月4日(金)	
6	三戸高校	9月8日(火)	
7	むつ市立関根中学校	9月10日(木) 同日開催	三厩中と今別中は合同開催
	外ヶ浜町立三厩中学校		
	今別町立今別中学校		
	八戸市立豊崎中学校		

8	黒石高校	9月14日(月)	
9	大湊高校	9月16日(水)	
10	おいらせ町立下田中学校	2月16日(火)	

# 高校生スキルアッププログラム推進事業

## 1 事業目的及び概要

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

## 2 事業内容

- (1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営  
学校外学修に積極的に取り組み、所定の基準を満たした高校生に「高校生スキルアップ奨励証」及び「高校生スキルアップ認定証」を交付する。

※学校外学修：放課後、休日、長期休業中などに学校外で実施される、公開講座やセミナー、ボランティア活動、インターンシップ等の活動

対象：幅広い知識や社会性を身に付けるとともに、企画力や行動力、プレゼンテーション能力等のスキルの向上を望む高校生（特別支援学校の高等部に在籍する生徒を含む。）

募集定員：なし

受付期間：高等学校等在籍中ならいつでも参加可能

申込方法：参加希望者は、高等学校等を通して当センターへ参加申請書を提出する。

- (2) 高校生スキルアップNEWSの提供  
高校生の校外での社会参加活動を促進するため、各地域で行われている公開講座やボランティア等の情報を収集し、県内の高等学校等に周知する。

※公開講座やボランティア等の開催情報を募集中

提供方法：別紙様式に記入し、チラシデータを添付して、当センターへ提供

- (3) 担当者説明会の実施  
事業の周知及び支援のため、高等学校等の担当教員向けの説明会を行う。

- (4) 評価サービス  
概ね1時間の学校外学修をもって1単位としており、20単位以上取得で「高校生スキルアップ奨励証」、35単位以上取得で「高校生スキルアップ認定証」を、総合社会教育センター所長名で交付する。

- (5) あおもり県民カレッジとの連携  
高校生は、本プログラムに参加している期間中、あおもり県民カレッジの学生として取り扱う。

## 高校生スキルアッププログラム推進事業

下記様式を当事業 HP からダウンロードし、メールにてお送りください。

(HP アドレス: [https://www.alis.pref.aomori.lg.jp/kouza/project\\_center/hssp/](https://www.alis.pref.aomori.lg.jp/kouza/project_center/hssp/))



### 各種学習・活動情報連絡票

令和 年 月 日

送信先：青森県総合社会教育センター		送信元：	
担当	育成研修課 高校生スキルアッププログラム担当宛て	担当者 職・氏名	
E-Mail	high-skillup@pref.aomori.lg.jp	E-mail	
TEL	(017) 739-1253	TEL	( ) -

活動名称	<input type="checkbox"/> 県民カレッジ認定講座 ※認定講座の場合チェックしてください
期 間	年 月 日 ( ) ~ 月 日 ( )
時 間	~
活動目的	
活動内容	※チラシデータを添付してください。
当日の集合場 所	
当日の担当者	
当日の担当 者連絡先	電話： E-mail アドレス：

○いただいた情報は、事業に参加している高等学校・特別支援学校高等部へ提供します。

○当センターは学校への情報提供のみ行います。参加者のとりまとめ等は行っておりません。何卒ご了承ください。

# 地域と学校をつなぐキャリア教育推進事業

## 1 事業目的及び概要

地域と学校が互いの専門性を尊重し、「支援」から「パートナーシップ」への意識の転換を図ることにより、地域全体が一体となった教育支援体制を整え、こどもたちの社会的・職業的自立を支える持続可能なキャリア支援ネットワークの構築を目指す。

## 2 事業内容

### (1) 地域と学校をつなぐキャリア教育研修会

#### <目的>

キャリア教育を支援する地域学校協働活動推進員や地域の活動者、教育委員会担当者が、実際の活動についての知見を共有すること、また、地域の活動を客観的に見直す機会を得ることにより、地域と学校が一体となったキャリア教育の一層の充実を図る。

<主催> 青森県総合社会教育センター

#### <対象>

地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、教育支援プラットフォーム実行委員会教育支援推進員、学校運営協議会（学校地域連携協議会）委員、地域学校協働活動に携わっている人、地域学校協働活動に関心のある地域住民、市町村教育委員会社会教育担当者

<定員> 30名程度

#### <研修内容>

【実践発表】

【講義・演習】

※日時、会場は調整中

### (2) 「我が社は学校教育サポーター」の管理・運営・普及啓発

#### <目的>

県教育委員会では、企業、事業所、NPO、各種団体等の多様な機関の連携によって、様々な教育活動がより効果的に行われるよう、地域社会が持つ教育力を結集する中間支援の仕組みである「青森県教育支援プラットフォーム」を構築している。

取組の一環として、「青森県教育支援プラットフォーム」へ登録した企業等をリスト化したウェブサイト「我が社は学校教育サポーター」について、県総合社会教育センターが管理・運営を行っている。

#### <事業内容>

ア ウェブサイト「我が社は学校教育サポーター」の運営全般

① 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営

② 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録

③ 学校からの依頼に対する仲介

イ 学校等への普及啓発

ウ 各地区プラットフォーム実行委員会との連携の強化

# 社会参加活動推進講座

## 1 趣 旨

地域活動の様々な実践事例について学ぶことで、県民の社会参加活動に対する意欲の向上と、当該活動の推進及び充実につなげる。

## 2 主 催

青森県総合社会教育センター  
社会福祉法人青森県社会福祉協議会

## 3 対 象

市町村の教育委員会及び首長部局職員、NPO やボランティア関係団体、市町村社会福祉協議会職員、地域活動に関心のある一般県民等

## 4 定 員

200 名程度

## 5 申込締切

6 月 2 6 日（金）まで

## 6 研修内容

ア 開催日時	7 月 3 日（金） 10:30～15:45
イ 会 場	県総合社会教育センター
ウ 内 容	<b>【事例発表】各 75 分</b> 第一部 青森県 PTA 連合会 会長 棟方 丈博 第二部 弘前大学人文社会科学部 教授 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長 李 永俊 第三部 ボランティア書道教室俊文書道会 代表 青森県立八戸第二養護学校 校長 西里 俊文

# あおもり家庭教育アドバイザー養成講座（東青地区）

## 1 趣 旨

地域における家庭教育支援体制を整備するため、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催し、子育てを応援する人材を育成・活用する。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

## 3 対 象

家庭教育支援者をめざす人及び活動中の、家庭教育支援に興味・関心のある人、市町村の家庭教育担当者等

4 定 員 30名

5 申込締切 6月4日（木）まで  
（基本、全ての日程の受講を推奨していますが、1日だけの受講も可能）

## 6 研修内容

### 第1回

ア 開催日時	6月11日（木） 10:00～15:00
イ 会 場	県総合社会教育センター
ウ 内 容	【オリエンテーション】 【講義】 「家庭教育支援者の役割・心構え」 講師 特定非営利活動法人 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子

### 第2回

ア 開催日時	7月23日（木） 10:00～15:00
イ 会 場	県総合社会教育センター
ウ 内 容	【講義】 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 八戸学院大学短期大学部 こども教育学科 教授 差波 直樹 【演習】 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター 職員

### 第3回

ア 開催日時	8月28日（金） 10:00～12:00
イ 会 場	学校法人 認定こども園 油川幼稚園
ウ 内 容	【見学・講義】 家庭教育支援チーム・子育て支援団体等見学 講師 学校法人 認定こども園 油川幼稚園 園 長 敦賀 努子

## 第4回

ア 開催日時	9月10日(木) 10:00~15:00
イ 会場	県総合社会教育センター
ウ 内容	<b>【講義】</b> 「気になる子どもの理解と対応」 講師 青森県発達障がい者支援センターDoors センター長 分枝 篤史  <b>【演習】</b> 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター 職員

## 第5回

ア 開催日時	10月14日(水) 10:00~15:00
イ 会場	県総合社会教育センター
ウ 内容	<b>【講義】</b> 「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」 講師 岩手大学 人文社会科学部 准教授 萩臺 美紀  <b>【演習】</b> 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター 職員

## 第6回

ア 開催日時	11月11日(水) 10:00~12:00
イ 会場	県総合社会教育センター
ウ 内容	<b>【演習】</b> 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター 職員

# あおもり家庭教育アドバイザー養成講座（上北地区）

## 1 趣 旨

地域における家庭教育支援体制を整備するため、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催し、子育てを応援する人材を育成・活用する。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

## 3 対 象

家庭教育支援者をめざす人及び活動中の、家庭教育支援に関心のある人、市町村の家庭教育担当者等

4 定 員 30名

5 申込締切 6月17日（水）まで  
（基本、全ての日程の受講を推奨していますが、1日だけの受講も可能）

## 6 研修内容

### 第1回

ア 開催日時	6月24日（水） 10:00～15:00
イ 会 場	三沢市国際交流教育センター
ウ 内 容	<b>【オリエンテーション】</b> <b>【講義】</b> 「家庭教育支援者の役割・心構え」 講師 特定非営利活動法人 十和田 NPO 子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子

### 第2回

ア 開催日時	7月27日（月） 10:00～15:00
イ 会 場	三沢市国際交流教育センター
ウ 内 容	<b>【講義】</b> 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 八戸学院大学短期大学部 こども教育学科 教授 差波 直樹 <b>【演習】</b> 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター 職員

### 第3回

ア 開催日時	8月19日（水） 10:00～12:00
イ 会 場	一時預かり専門託児所 Joyful pop
ウ 内 容	<b>【見学・講義】</b> 家庭教育支援チーム・子育て支援団体等見学 講師 Joyful pop 代 表 小比類巻 麻衣

第4回

ア 開催日時	9月24日(木) 10:00~15:00
イ 会場	三沢市国際交流教育センター
ウ 内容	<p><b>【講義】</b>  「気になる子どもの理解と対応」  講師 青森県発達障がい者支援センターDoors  センター長 分枝 篤史</p> <p><b>【演習】</b>  「あおもり親楽プログラムⅡ」  進行 県総合社会教育センター 職員</p>

第5回

ア 開催日時	10月26日(月) 10:00~15:00
イ 会場	三沢市国際交流教育センター
ウ 内容	<p><b>【講義】</b>  「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」  講師 岩手大学 人文社会科学部  准教授 萩臺 美紀</p> <p><b>【演習】</b>  「あおもり親楽プログラムⅢ」  進行 県総合社会教育センター 職員</p>

第6回

ア 開催日時	11月18日(水) 10:00~12:00
イ 会場	三沢市国際交流教育センター
ウ 内容	<p><b>【演習】</b>  「あおもり親楽プログラムⅣ」  進行 県総合社会教育センター 職員</p>

# あおもり家庭教育アドバイザーフォローアップ研修

## 1 趣 旨

家庭教育アドバイザーとしての活動をより充実させるため、講義や演習を通して家庭教育支援に必要な知識やスキルを学ぶとともに、受講者間の情報共有やつながりづくりの機会とする。

2 主 催 青森県総合社会教育センター

3 対 象 あおもり家庭教育アドバイザー

4 定 員 30名

5 申込締切 9月23日（水）まで

## 6 研修内容

ア 開催日時	9月27日（日） 9:00～12:00
イ 会 場	県総合社会教育センター 4階 第2教材開発室
ウ 内 容	<b>【講義】</b> 「あおもり家庭教育アドバイザーの役割と あおもり親楽プログラムの活用について」 県総合社会教育センター職員  <b>【演習】</b> ・計画シート作成 ・「あおもり親楽プログラム」体験 ・情報交換 県総合社会教育センター職員

# 家庭教育相談事業

## 1 事業目的及び概要

子育て中の不安や悩みを軽減するため、乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う。

## 2 事業内容

- (1) 対象 乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族
- (2) 実施方法 電話相談：週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)  
13:00～15:00  
メール相談：24時間受付
- (3) 場所 県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容 発育・発達、しつけ、対人関係などのこどもに対する悩みや家庭教育全般

# 家庭教育支援普及啓発事業

## 1 事業目的及び概要

家庭での教育力を高め、こどもの健やかな成長を支援するため、親子で気軽に学べる学習機会の提供や情報を発信するとともに、県の家庭教育支援に関する取組について広く普及啓発する。

## 2 事業内容

- (1) 親子の学び応援フェアの開催
  - ア 時期 令和9年2月頃
  - イ 場所 県内2箇所(東青地区/西北地区)を予定
  - ウ 対象 子育て中の親子やその家族
  - エ 内容 子育て情報や親子で学べるブースを設置
- (2) 各種広報
  - ア ポスター及びWEB広告等
  - イ ノベルティ制作・配布

**令和7年度**

**事業報告**

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【新任職員研修前期】

令和7年6月13日(金)10:00～15:00 青森県総合社会教育センター 受講者50名

### 1 内容

【講義】「生涯学習・社会教育」ははじめの一步

【演習】「熟議」を体験してみよう

～発表しない、まとめない!?えっ!?～

【講師】秋田大学教育文化学部 非常勤講師

みながわ まさひと  
皆川 雅仁 氏



### 【経歴】

秋田県内の小、中学校で教鞭をとるとともに、秋田県教育庁生涯学習課等で社会教育の仕事にも携わってきた。2012年からは、小、中学校の校長も歴任。校長時代の2年間は、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員も務めた。社会教育関係では、派遣社会教育主事4年、教育事務所2年、宿泊型青少年教育施設3年、社会教育機関7年、県教育庁生涯学習課6年の勤務経験があり、学校教育に17年、社会教育に21年携わってきた。2021年からは、秋田大学非常勤講師として社会教育経営論を担当している。また、生涯学習・社会教育、学校教育に関するさまざまな分野の研修講師として、北東北を中心に全国各地で活躍している。

### 【講義要旨】

- 生涯学習や社会教育において事業を企画する際の拠り所を考えると、まず関係法令（教育基本法や社会教育法など）や各種計画、社会教育関係団体について確認することが重要です。
  - 社会教育法第2条では、社会教育の定義が定められています。また、第3条では国及び地方公共団体の任務が、第5条では市町村の教育委員会の事務について詳しく記されています。事務（事業）を実施する際は、社会教育法を確認しながら進めましょう。
  - 秋田県生涯学習センターでは、業務（事業展開）の改善を図るため、職員が一堂に会する勉強会を何度も行い、その結果、市町村と協働スタイルによって展開する「オーダーメイド型社会教育主事派遣事業」を立ち上げ、学校・家庭・地域の連携・協働や障害者の生涯学習支援の分野で精力的な活動を展開しています。
  - 社会教育のマネジメントでは、LRDCサイクル（※注）が有効です。地域の状況を把握し、既存の要素を改良して事業を企画・実施します。その結果生まれたつながりを活用し、次の展開を考えることが重要です。「事業成功の鍵はネットワークにある」と言えるでしょう。
- 注）Look（意識的に見る）、Renovate（改革する）、Do（実施する）、Connect（つながる）

### 2 受講者の感想

- ・新人で分からないことが多かったのですが、社会教育について貴重な講義を受けることができよかったです。また、さまざまな地域の方と交流を深め情報交換できたので、これからの仕事に生かしていきたいと思えます。
- ・社会教育の守備範囲の広さに戸惑い、日々の雑務に追われ、訳も分からず業務をこなしていましたが、本日の講義を聞き、どちらを向いて働くべきか見えてきました。
- ・「熟議」では、気負うことなく意見交換ができました。また、自分では思いつかなかった考えや気づいていなかった点に気づくことができ、とても有意義な活動となりました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【新任職員研修後期】

令和8年2月19日(木)10:00～15:00 青森県総合社会教育センター 受講者39名

### 1 内容

【テーマ】「学びを通じた地域づくり」

～社会教育職員に期待される役割とは～

【講師】弘前大学 教育学部

准教授 こしむら やすひで  
越村 康英 氏



### 【経歴】

2001年度から11年間にわたり、東京都大田区および北区の教育委員会で社会教育指導員として勤務され、区民大学、日本語教育、家庭教育学級、ジュニアリーダー研修会など幅広いプロジェクトに携わる。その経験を活かし、2020年10月から弘前大学教育学部の准教授として教育・研究活動に従事。また、青森県生涯学習審議会委員、青森県社会教育委員、弘前市社会教育委員など社会教育の推進に尽力している。

### 【講義要旨】

- 社会教育とは、よりよい「暮らし」と、その基盤となる「地域」「社会」を創造するために、私たちが相互主体的に行う学習活動です。
- 憲法の理想を人々の生活に根付かせるために、社会教育において重要視すべきことは、「平和教育」、「主権者教育（自治の力を育む学び）」、そして「人権教育」の3つです。
- 遊子川地区における「地域づくり」の事例から、「地域づくり」と「社会教育」は、公民館の日常的な活動を通じて、住民同士のつながりや共同性（ソーシャル・キャピタル）を育み、それが「地域づくり」の基盤となっていることがわかります。
- 「こどもまんなか社会」実現には、こどもの意見と最善の利益を尊重し、脆弱性に配慮した社会教育の整備が必要です。こどもの声を反映する教育事業や学校運営協議会への参画を促し、地域の課題を共有し解決する共同的な学びを組織することで、こどもの主体性を尊重する社会を目指していく必要があります。
- 家庭教育や学校教育を含む社会教育の役割として、子育て文化を市民に広め、すべての人が「社会的親」としてこどもを育て支える社会の実現を期待したいです。

### 2 受講者の感想

- ・自分の役割を見直すよい機会になりました。対象は誰なのか、何のために実施するのか、実施したことによって、どんな成果、変化が期待できるのか、しっかり考えをもって、事業を企画・運営していこうと思いました。
- ・3つの観点について、演習・対話・講義の流れで、大いに考えを深めることができました。特に「地域づくりとはなにか?」「事業と地域課題解決の関わり」「こどもの意見を反映する社会教育」「AARサイクルの考え方」等々、大変参考になりました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第1回】

令和7年6月27日(金)10:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者37名

### 1 内容

【テーマ】「広報業務に係る SNS 活用の実際」

【講師】ディーシーティーデザイン

代表 えびな あきこ  
蝦名 晶子 氏



#### 【経歴】

2004年に「ディーシーティーデザイン」を設立。Web サイトや紙媒体の企画から制作・活用提案・継続的な運用支援を行っている。クリエイター向けのセミナー講師のほか、経営者向けの講演なども行っている。「伝えるチカラで地域と人をつなぐ」をモットーに、効果的なPR方法を常に模索している。

#### 【講義要旨】

- SNS利用時は、不用意な発言や誤解を招く言葉遣いに注意し、アカウントやパスワードを適切に管理することが重要です。
- 各 SNS の最新の利用者数や特徴を把握することが重要です。興味を持ってくれる人に届くように効果的なコンテンツ作りを心掛けましょう。
- 聴覚・視覚障害者にも配慮した情報発信を心掛けましょう。画像には必ず代替テキスト (ALT) を設定し、内容を簡潔かつ分かりやすく説明しましょう。また、赤い背景に黄色の文字など視認性の低い配色は避け、読みやすいデザインを意識しましょう。
- 情報過多の時代では、相手の脳に負担をかけない情報発信が重要です。効果的な発信のために、明確なゴールを設定しましょう。
- コンテンツを考える際は、常に初めて見る人の視点を意識することが大切です。対象となる興味のある人にしっかり届ける工夫をしましょう。悩んだ時や困ったことがあれば、AI を活用しながらアイデアを広げてみるのも良い選択です。
- 色の持つイメージを損なわないよう、使用方法や適用する場所を慎重に選びましょう。
- 著作権や肖像権に注意し、背景の映り込みや通行人の顔などに配慮しましょう。BGM や商標、撮影禁止場所の確認に加え、動画編集ソフトや素材サイトの利用規約も必ず読み、適切に遵守しましょう。

### 2 受講者の感想

- ・周知の方法に関して、具体的な改善点等を踏まえながらお話して下さったので、とても勉強になりました。
- ・「こんな機能もあるの？」と思うような新たな発見がたくさんありました。知らないことがこんなに多いとは驚きでした。
- ・SNS 告知や Web サイト用のお知らせ文を修正する演習を通じて、多くのことを学びました。ただ単に読みやすい文章にするだけではなく、ユーザー視点に立って「何を最も伝える必要があるのか」を見極めながら文章を作る重要性を実感しました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第2回】

令和7年7月8日(火)10:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者10名

### 1 内容

【テーマ】「オンライン会議・研修の実施方法」初級編

【講師】県総合社会教育センター職員

【実践演習】



- Web 会議システムは、インターネット環境とパソコンやスマートフォンを利用して遠方の相手と会議ができる便利なコミュニケーションツールです。
- メリットとして、場所を選ばず、移動時間や交通費の削減が可能で、多様な働き方を実現できます。一方、デメリットには表情や雰囲気への把握が難しいことや、通信状況や機器のトラブルが挙げられます。
- Web 会議実施には、パソコンやスマートフォン、Web カメラ、インターネット環境が必要です。加えて、イヤホンやマイク、キャプチャデバイス、オーディオインターフェース、ディスプレイ・プロジェクター、Wi-Fi ルーターを準備すれば、円滑に進行できます。
- Web 会議ではハウリング問題を防ぐため、同室の複数端末のマイク・スピーカーをミュートにするか、ヘッドセットを使用するなどの対策が必要です。また、事前に同じ環境で接続テストを行うことが重要です。
- Web 会議の基本的な操作方法や機器の接続方法を、実際の演習を通じて具体的に確認しながら、操作に慣れていきましょう。



### 2 受講者の感想

- ・主催者側と参加者側、どちらの操作も実践演習ができ、操作中、後ろで見守っていただけて手厚くサポートしていただいたのがとてもありがたかったです。
- ・機器のつなぎ方や zoom の主な機能など、初歩的なところから非常にわかりやすく教えていただきました。今まで何となく使っていたものが、はっきりとわかったような気がします。これからどんどん使用して、使い方を覚えていきたいと思えます。
- ・苦手意識があり、機器に触ることも恐れていたのですが、今回の講座で実地もあり苦手意識が払拭されました。チャレンジしてみます。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第3回】

令和7年7月15日(火)10:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者19名

### 1 内容

【テーマ】「スマホ1つでOK! 動画作成講座  
～ 基礎 と 実践 まるわかり 編 ～」

【講師】 エイチピースタイリング 代表 <sup>たかもり</sup>高森 <sup>みき</sup>三樹 氏



#### 【経歴】

Webサイトの企画政策・コンサルティング等に從事しながら、障がいのある方や教育現場においてICTを効果的に活用できる方法等を研究している。また、研修会の講師、情報発信アドバイザー、アクセシビリティコンサルティング等を務めている。障がい者向けのスマホ・タブレット講習会も県内外で実施している。障がい者に対して、スマホ・タブレットの活用法を教えることができる人材の育成にも注力しており、この事業が、日本のモバイル業界における最高峰の賞、「モバイルプロジェクト・アワード2014」の社会貢献賞に選ばれている。

#### 【講義要旨】

##### ○なぜ今、自治体で動画を活用するのか

- ・従来の広報（広報誌等）が抱える「情報が届かない」「内容が理解されにくい」「記憶に残らない」といった課題に対し、動画が有効な解決策となることを学びました。
- ・動画が持つ幅広いリーチ、直感的な伝達力、記憶への定着効果に加え、視聴者に「親しみやすさ」を感じさせ、「シェアしたくなる」ような共感を呼ぶコンテンツの重要性についても学びました。

##### ○自治体による先進的な動画活用事例

- ・「地域の魅力発信（観光・グルメ等）」「制度解説（福祉・税金等）」「災害対策（避難所開設・防災グッズ等）」といった具体的な活用パターンを学びました。
- ・広島県のTikTok活用や、沖縄県の投稿動画（観光）による経済効果、福島県の震災記憶伝承など、高い効果を上げた先進事例を通して、動画活用の大きな可能性を具体的に把握することができました。

##### ○スマートフォンでの動画制作（実践編）

- ・「手ブレ補正」や「ストレージ容量」といったスマホ選びの要点から、購入すべき機材の優先順位（①三脚②マイク③照明）、そしてCapCutを用いた編集アプリの具体的な操作方法まで、すぐに実践できる知識と技術を習得しました。また、情報発信の際に必須となる著作権等の法的・倫理的な注意点についても学ぶことができ、明日からでも動画制作を始められる自信ができました。

### 2 受講者の感想

- ・とてもわかりやすく、楽しく受講できました。仕事でもプライベートでも、少しずつチャレンジして、活用していきたいと思います。ありがとうございました。
- ・撮影に必要な機材や撮影の仕方など、初歩的な部分からのお話で、非常に分かりやすく勉強になりました。
- ・楽しかったです。初心者でも動画ができておもしろかったです。また、写真からでも動画ができるんだなと思って良かったです。ジンバルも興味深かったです。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第4回】

令和7年8月29日(金)10:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者26名

### 1 内容

【講義】「障がい者の生涯学習を支える自治体の役割」

【講師】国立市公民館 館長補佐

社会教育主事 井口 啓太郎 氏



【経歴】

東京都国立市の社会教育主事として「しょうがいしゃ青年教室」等に関わり、2018年から文部科学省にて障がい者の生涯学習政策を担当。2022年から現場に戻り、実践に関わりながら共に学ぶ在り方の研究等に取り組んでいる。

【講義要旨】

- SDGsの「誰一人取り残さない」「公正で包摂的な社会」を目指し、生涯学習や社会教育の視点から、持続可能な共生社会の実現に貢献しましょう。
- 障がい者の生涯学習は、当事者をエンパワーし、福祉が用意する「小さな社会」を広げるとともに、「健常者中心の社会」を変える共生への学びを促進することを目的としています。
- 障がい者の生涯学習の取り組みを新たに立ち上げること（0から1）も大事ですが、現行の事業・講座が誰にでも開かれているか、改めて考えてみる（9から10）が第一歩になります。

【実践事例紹介・「障がい者の生涯学習」はじめの一步ワークショップ】～社会的包摂への一步を踏み出すために～

【講師】秋田県生涯学習センター

副主幹（兼）学習事業チームリーダー 柏木 睦 氏



【経歴】

秋田県生涯学習センターでは、「障害者の生涯学習」に関する調査研究を中心とした活動を行い、地域課題の解決に向けた知見を提供している。また、地域のニーズに応じたオーダーメイド型社会教育主事派遣を実施し、きめ細かな支援を行っている。

【講義要旨】

- 障がい者の生涯学習では、防災やスポーツ、熟議を通じた体験を通して楽しさや行動への意欲を引き出し、自由な意見交換を大切にしましょう。
- 場の規模や人数に囚われず、過度な広報の期待を控え、無理なく分担しながら、着実に取り組みを続けていくことが重要です。
- 目的を見失わないよう何が大切かを常に考えながら、柔軟さを保ちつつ信念を持ち続けることが重要です。さらに、自ら体験・経験を重ね、小さな行動から着実に形にし、規模に囚われず広い視野で実行を心がけましょう。

### 2 受講者の感想

- ・障がいのある方だけでなく若者などが一緒になって公民館でいろいろな活動をしていることが心に残りました。社会教育が生活を豊かにすることがよく分かりました。
- ・障がい者が生涯学習続ける仕組みを知ることができました。生涯学習、防災、スポーツ、熟議と取り組めるヒントをいただきました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第5回】

令和7年11月10日(月)10:00~15:00 県総合社会教育センター 受講者 41名

### 1 内容

【テーマ】「参加意欲を促すチラシの作り方」

【講師】青森大学 客員教授

青森県立保健大学 非常勤講師・客員研究員 たけぼやし まさき 竹林 正樹 氏



#### 【経歴】

青森県出身。立教大学経済学部、米国 University of Phoenix 大学大学院 (Master of Business Administration)、青森県立保健大学大学院 (博士 (健康科学)) 修了。

行動経済学を用いて「頭ではわかっているが、健康行動できない人を動かすには？」をテーマにした研究を行っているほか、年間300以上のチラシ作成に携わっている。代表作は「心のゾウを動かす方法」(扶桑社)、「介護のことになると親子はなぜすれ違うのか」(GAKKEN)。

#### 【講義要旨】

- 多くの人は認知バイアス (心理傾向) に影響されるため、正しい情報提供を受けても必ずしもその通りに行動するわけではありません。認知バイアスの特性に沿った働きかけであるナッジ (nudge: 「軽くつつく」を意味する英語) を設計することで、自発的な行動を促進させる可能性が高まります。
- ナッジの提唱者の R.セイラー博士 (米国) がノーベル賞を受賞したこともあり、ナッジは世界中で注目されています。日本政府もナッジ活用を推奨しており、管理栄養士や保健師の国家試験にはナッジが出題範囲になり、食育でもナッジの活用が求められています。
- 多くの人はメッセージが増えるごとに読むのをやめます。このため、メッセージを1つだけに絞り、文字数も減らし、十分な余白を確保するようにしてください (簡素化ナッジ)
- 初頭バイアス (第一印象を持ち続ける心理) とピークエンドバイアス (最後の印象を記憶定着する心理) の観点から、チラシ作成の際には「真っ先に最初と最後の枠を確保し、メッセージを一貫させること」を意識してください。
- 自分のアイデアと相手の受け止め方が大きく乖離することはよく起きます。このため、ターゲット層に聞くようにしてください。内部決裁だけでチラシを出すのは危険です。

### 2 受講者の感想

- ・研究や実験に裏付けされたエビデンスをもとに説明されたので、とても分かりやすく、納得できる研修でした。
- ・ナッジ理論、様々な分野に応用できそうで大変参考になりました。チラシについても、今回学んだことを活かせるよう励んでいきたいと思いました。
- ・チラシの効果的な作り方が分かり、これまで目にしてきたチラシの良し悪しを知ることができたり、自分でも作成する時の参考になったり、とても勉強になりました。チラシに限らず、様々な場で使える学びを得ることができたので、参加してとてもよかったです。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座センター研修【選択研修第6回】

令和7年12月3日(水)10:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者10名

### 1 内容

【テーマ】「ファシリテーター講座」初級編

【講師】県総合社会教育センター職員

【実践演習】



- 「熟議」とは、多様な立場や背景を持つ参加者が、互いの意見を否定せず受け止め合い、議論を通じて新たな視点やアイデアを共有し、全体としての方向性や目標を確認する場として機能します。
- ファシリテーターは、円滑な議論を促進するために話しやすい雰囲気を作り、テーマを明確化するとともに、参加者へ新たな気付きや視野を広げるきっかけを与える重要な役割を果たします。
- アイスブレイクや付箋などを効果的に活用することで、短時間で場をまとめながら参加者の意見を集約し、協働するための土台づくりや考え方の共有を図ることが可能です。
- 話し合いでは互いの意見を「受け入れる」のではなく、尊重して「受け止める」視点を持つことが重要であり、結論を急がずに進めることで柔軟な対話を深めることができます。
- 個々の参加者が議論を自分ごととして捉え、自らの行動につなげる意識を持つことが、地域社会や学校における協働の意識醸成や主体的な取り組みを促進する鍵となります。



### 2 受講者の感想

- ・話しやすい雰囲気を作ることが大事だと思いました。そのためのスキルを学ぶことができました。ワークショップでは、各グループでまとめ方に違いが出たところが興味深かったです。
- ・結論を出しがちな話し合いですが、熟議をすることで多様な考えにふれることができ、視野が広がる点を実感できました。同じ意見でもまとめ方、感じ方が違うのが分かり、今後の仕事に生かしていきたいと思います。
- ・少人数でしたが、ゆっくり丁寧に講義演習が出来たので、「熟議」の手順を理解することが出来ました。パワーポイントデータをいただいたので、機会があれば是非やってみたいと思います。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座地区研修【東青地区】

令和7年5月13日(火)13:00～15:00 県総合社会教育センター 受講者24名

### 1 内容

【テーマ】「業務軽減につながる ICT の利用について」

【講師】ディーシーティーデザイン

代 表 えびな あきこ  
蝦名 晶子 氏



### 【経 歴】

2004年に「ディーシーティーデザイン」を設立。Web サイトや紙媒体の企画から制作・活用提案・継続的な運用支援を行っている。クリエイター向けのセミナー講師のほか、経営者向けの講演なども行っている。「伝えるチカラで地域と人をつなぐ」をモットーに、効果的なPR方法を常に模索している。

### 【講義要旨】

○効果的な情報発信において、読み手の脳に負担をかけないことが、情報にありふれた時代のおもてなしです。

○チラシやポスターを作成する際に、最初に考慮すべき重要な要素は「6H4W」です。

When	いつ
Where	どこで
Who	誰が
Whom	誰に向けて
What	何を
Why	なぜ

How	どのように
How much	いくらで
How many	どれだけ
How long	スケジュール

○色もつイメージを損なわないように使い方や配置場所を工夫することで、より効果的なチラシやポスターが作成できます。

○広報活動においては、Canva や chatGPT 等の ICT ツールを活用して、業務の効率化と軽減を図りましょう。

### 2 受講者の感想

- ・ ICT をフル活用すれば業務時間の短縮に確実に繋がると思いました。今後、活用できるものは積極的に取り入れていきたいと思いました。
- ・ 広報誌の担当となっていたので、今回の内容はどれもタイムリーでとても勉強になりました。
- ・ これまでは広報の締切にとらわれ、情報の受け手に対して、どのような情報をどのように周知するかという、基本的な視点が抜けていたことを思い知らされました。「広報」の視点からの情報周知について、大変勉強になりました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座地区研修【西北地区】

令和7年9月10日(水)10:00～15:00 日本海拠点館 受講者28名

### 1 内容

#### 【講義・演習】

「コミュニティ・スクールの実効性が高まると見えてくる世界」  
～地域学校協働活動をリノベーションするCS～

【講師】秋田大学教育文化学部 非常勤講師

みながわ まさひと  
皆川 雅仁 氏



#### 【経歴】

秋田県内の小、中学校で教鞭をとるとともに、秋田県教育庁生涯学習課等で社会教育の仕事にも携わってきた。2012年からは、小、中学校の校長も歴任。校長時代の2年間は、文部科学省のコミュニティ・スクール推進員も務めた。社会教育関係では、派遣社会教育主事4年、教育事務所2年、宿泊型青少年教育施設3年、社会教育機関7年、県教育庁生涯学習課6年の勤務経験があり、学校教育に17年、社会教育に21年携わってきた。2021年からは、秋田大学教育文化学部非常勤講師として社会教育経営論を担当している。また、生涯学習・社会教育、学校教育に関するさまざまな分野の研修講師として、北東北を中心に全国各地で活躍している。

#### 【講義要旨】

- 地域と学校が共に子どもたちの成長を対等な関係で応援することが、社会を創る人材育成の理想的な姿勢です。
- 「地域とともにある学校づくり」は、CSと地域学校協働活動の関係性を理解することが重要です。地域と学校が対等で横並びの関係を築き、協働の実現には自分事意識が不可欠であり、その醸成には自由闊達な議論の場が求められます。
- CSは、学校が「社会を創る人材育成」の責任を果たすため、子どもが地域で学び活動する経験を地域住民と一緒に積ませることで成人ギャップ緩和につながる一助となる取組です。
- 子どもが地域で活躍する人材となるため、学校では練習の場を、社会では大人との関わりを通じた体験の場を通じて、「ナナメの関係」づくりに取り組むことが重要です。
- CSでは、教員、保護者、地域住民が「熟議」を通して子どもに必要な力等を意見交流し、その意見を学校運営協議会に段階的に反映させ、そこでの議論を基にして学校や地域で展開されている地域学校協働活動をリノベーションしていくことがとても重要になります。
- 学校と地域が目的を共有し、横並びで子どもの学びや未来づくりを支える姿勢が重要です。CSはそのための有効な手段であり、地域学校協働活動を充実させる鍵と言えます。

### 2 受講者の感想

- ・司会も記録も発表もない「熟議」がとてもよかったです。緊張することもなく、グループの方々の意見を聴くことができ、とても勉強になりました。
- ・学校と教育活動と地域が一体となって子どもについて語り合うことの重要性を改めて考えさせられました。社会教育の大切さを実感できる機会となりました。
- ・CSを進める際の大切な視点やあり方について学ぶことができました。横並びである重要性や「熟議」の行い方を知ることができました。実際に進めるにあたっては、焦らずに時間をかけてコミュニケーションを図っていきたいと思います。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座地区研修【中南地区】

令和7年7月23日(水)13:30～15:30 平川市文化センター 受講者26名

### 1 内容

【テーマ】「社会教育委員としての役割について

～地域づくりを支える社会教育～

【講師】青森明の星短期大学 青森公立大学 北里大学

非常勤講師 わたなべ やすゆき  
渡部 靖之 氏



### 【経歴】

高等学校教諭として教育の現場に立ち、その後、生涯学習や社会教育の分野で活躍。1996年に青森県総合社会教育センター指導主事、1999年に国立教育会館専門研修指導主事を経て、2000年から国立教育政策研究所専門調査員として全国的な教育研究に携わる。青森県教育庁生涯学習課では主幹や課長として政策立案を牽引。2019年から3年間高等学校長も務めた。

現在は、大学等で学校教育及び社会教育分野への貢献を続けている。

### 【講義要旨】

- 社会教育委員は、教育委員会に助言するために、社会教育の計画立案、会議での意見陳述、必要な研究調査を行う職務を担います。また、教育委員会の会議で意見を述べるほか、市町村の場合は、青少年教育について助言・指導を行うことができます。
- 社会教育委員は、地域をより良くする核となる存在として、現状を把握し問題の解決や地域の良い点をさらに伸ばすための具体的な取組を推進するという社会的使命があります。その使命を果たすためには、地域住民全員を「キーパーソン」と捉え、「ゆるやかなネットワーク」をつくり、参加型社会を目指した学びを促進することが重要です。
- 中南地区の各市町村においても、委員間の学びの共有に始まり、世代間交流の場の提供、家庭の教育力向上に向けた取組、子どもたちの育成に係る取組など、「行動する」社会教育委員としてできることが様々あるはずです。
- とりわけ必要なのは、現在喫緊の課題となっている、子どもたちをめぐる課題（不登校やいじめなど）の現状を知り、対策を考え、具体的な取組を立ち上げていくことです。
- 地域の未来を担う子どもを共に育てるためには、「地域の教育目標」を定め、地域住民と学校がそれを共有することが大切です。社会教育委員がその中心になって動いてほしいと願っています。

### 2 受講者の感想

- ・社会教育委員の役割と機能についてよく理解できました。地域社会における社会教育委員の使命を自覚し、行動できる社会教育委員になりたいと思います。
- ・社会教育委員について、具体的で役立つことばかりでした。今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。
- ・社会教育委員とは何をするのかという事について、今日初めてはっきりと分かりました。とても勉強になりました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座地区研修【上北地区】

令和7年5月21日(水)13:00～16:15 おいらせ町みなくる館 受講者60名

### 1 内容

【テーマ】「まちづくりのファシリテーション技術」

【講師】弘前大学 大学院地域社会研究科

准教授 土井 良浩 氏



### 【経歴】

学生時代からワークショップ手法を用いたまちづくりに関する調査・研究に携わり、住民主体の地域活性化プロジェクトの企画・運営にも取り組む。

世田谷区の財団で8年間にわたり市民活動を支援する仕事を経て、2014年から現職。

現在は青森県内各地で地域づくり支援に努めるとともに、地域づくりの人材育成を目指した研修の企画・運営も担当している。

### 【講義要旨】

- 現代社会では人口減少や超少子高齢化に伴い、地域コミュニティの維持が課題となっています。このため、多様な主体が協働してまちづくりを進めることが重要であり、社会教育の役割としてファシリテーション技術の習得が求められています。
- ワークショップとは、身体を使って作業・体験するもの、学び・発見を伴うものなど多様ですが、何かを「創造」したり「検討・決定」したりする“場”です。
- ファシリテーターは、グループの力を引き出し、自発的行動を促進します。集団作業の生産性や創造性を向上させ、チームやコミュニティを形成します。最終目的は、彼らが自ら動ける状態を作ることです。
- 今後のまちづくりでは、地域の交流の場を設け、対話を通じて課題解決のアイデアや担い手を発掘することが求められます。ファシリテーターは、プロジェクトチームを形成し、自主的な活動を促進する役割を担います。

### 2 受講者の感想

- ・ワークショップ、ファシリテーターの技術について、理論からしっかり学ぶことができました。ワークショップの研修が充実しました。
- ・まちづくりについて、似た考えをもった方々と話し合う機会がもてたこと、様々な視点でまちづくりを考えたことがとても勉強になりました。
- ・住民を含むまちづくりの必要性について理解することができました。これまでは、同業者とのワークショップへ参加したことはありましたが、様々な立場の人が参加するワークショップは初めてだったので、意見を交換することができて有意義でした。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座地区研修【下北地区】

令和7年6月25日(水)13:30~16:00 下北文化会館 受講者10名

### 1 内容

【テーマ】「もったいないから未来をつくる」

【講師】一般社団法人もったいない研究所

代表理事 おか うたこ  
岡 詩子 氏



### 【経歴】

鶴田町出身。2011年に青森にUターンし、「もったいなくないものづくり」を目指し、無縫製のリネンストールを中心に、縫い目の見えない完全手縫いのリネン製品を製作する『ハンサムリネン KOMO (コモ)』を、2021年には、鶴田町が好きな仲間が集まり、自分たちがもっと楽しく鶴田町で暮らす為にやりたいことを企画実行する団体、『つるた街プロジェクト』を設立。現在は、もったいない研究所で廃校を利活用し、地域貢献に尽力している。

### 【講義要旨】

- 「人が集まり、長く滞在する」ことで新たな人と人のつながりが生まれ、その交流を通して利用者は地域の一員としての参加意識や貢献を実感できます。
- 関係人口の増加は住民の新たな選択肢を広げ、過ごしやすい環境を形成します。滞在時間の延長に伴い消費・生産が増え、地域経済が活性化することに繋がります。
- TSURUTALABO が、人・もの・コトの情報を集め、適切にマッチングを行うことで利用者満足度が向上し、地域活性化を支援できると考えています。
- 鶴田町の「もったいない」資源を活かす仕組みを作ることで、人が集まりやすい場所を作り、地域の活力を高めます。
- 「やりたいを応援」「モノ・人・情報を集める」「個々の課題を知る」の3つの機能を整え、好循環を生み出すことで「もったいない」を活かし、人を集め地域を元気にします。
- 鶴田町の未来を実現するには、「社会からの信頼」と民間の「自由で柔軟な動き」の両方が必要です。資源を取りこぼさずすべて活用する新しい価値を創り、時間をかけて唯一無二の特色ある町を目指します。

### 2 受講者の感想

- ・講義に参加し、岡さんの話がとても興味深く、多くのアイデアを得ることができました。とても参考になる内容が多かったため、今後の活動に活かしていきたいと思います。
- ・町を活性化させるヒントや具体的な取り組みについてのお話を伺い、下北地域への思いを深めるきっかけとなりました。また、担当者で考えるよい機会になったと思います。
- ・プロジェクトの内容や具体的な取り組みについて深く理解することができました。また、自治体と利用者との連携方法についても大変参考になりました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座地区研修【三八地区】

令和7年9月25日(木)13:30～15:45 五戸町立公民館 受講者28名

### 1 内容

【テーマ】「地域の次代を担う若者の育成」

【講師】NPO 法人 ACTY 理事長  
株式会社 AC プロモート

代表取締役 町田 直子 氏



### 【経歴】

八戸市を拠点に「世界に誇れるまちづくり」をめざして活動。地域資源に付加価値をつけることで、地域ならではの魅力を伝える観光開発など、観光を通じた地域づくりを推進している。

また、環境や景観を守り続ける保全活動やグローバルな感覚で活躍できる人材育成に取り組んでいる。

### 【講義要旨】

- NPO 法人 ACTY は、地域の文化・歴史資源を活かした観光振興と地域活性化を目指して活動しています。地元住民と観光客の交流の場を創出し、持続可能な観光モデルの構築に取り組んでいます。
- 魅力的な地域づくりの重要なポイントは、地域資源への感動を発信する熱意と、それを支える想いです。さらに、目指す未来を具体化する明確な「VISION」が不可欠です。これらを結集し、多くの人々を巻き込むことで、特別な地域の魅力になります。
- 地域づくりには、地域ブランディングと企画力が重要であり、経済効果を生み出す Win-Win の実践を目指して、どこまでも追求し取り組み続ける揺るがないモチベーションが大切です。また、若者が地域への誇りと可能性を感じ取れる環境を整備することが求められます。
- 地域づくりにおいて最も大事なものは、地域との深い関係を築き、その魅力を理解することです。地元のことをよく知ることで、真の資源や可能性を見出せるだけでなく、住民との信頼関係が生まれます。
- 景色や食材の価値を再発見し、それに新たな付加価値を加えることで、地域に喜ばれ、観光客にも魅力的な地域づくりを目指します。地域に根付く暮らしを持続可能な観光コンテンツとして商品化しながら、人材育成と資源の保全を推進します。

### 2 受講者の感想

- ・地域づくりに関して、当町の魅力的で持続可能な地域づくりを実現するため、今回の講義で学んだ内容を積極的に活用していきたいと考えています。
- ・観光分野の具体的な事例を通じて、社会教育に役立つ理念やアプローチについて深く学ぶ機会を得ることができました。
- ・途中で諦めるのではなく、明確なビジョンを示し、その先へ進んでいくことの重要性は、人を育てる上で欠かせないと感じました。

## 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 伴走型支援

### 1 趣旨

市町村等の取組をサポートするため、希望する市町村等にセンター職員を派遣し、市町村等の職員とともに課題解決に取り組む、伴走型の支援を行う。

### 2 伴走型支援の方法等

○受付期間：通年

○相談対応：随時

○依頼方法：伴走型支援依頼申込書を提出

○支援内容：当センターが実施する事業等のノウハウや専門職としての知見及び経験に基づいた、指導・助言・相談等を行う。

〈例〉・事業の企画・立案についての相談

・研修講座の講師選定に係る相談

・コミュニティ・スクールにおける熟議（以下CS熟議）の指導・助言

・オンライン配信機器接続の仕方についての指導・助言

・研修会への職員派遣 等

○支援方法：電話、メール、面談等により、相談内容をヒアリングし、アドバイスや情報提供等を行う。

### 3 取組実績

- ・五戸町教育委員会：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言
- ・東北町教育委員会：コミュニティ・スクール立ち上げについての指導・助言
- ・おいらせ町教育委員会（2件）：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言
- ・弘前市教育委員会（3件）：研修会内容の相談及び当センター講師派遣
- ・青森市立萇町小学校：研修会講師選定
- ・教育庁文化財保護課：オンライン配信機器接続の仕方について（社セ大研修室）
- ・八戸市立城北小学校：CS熟議の指導・助言及び当センター講師派遣
- ・八戸市立吹上小学校：CS熟議の指導・助言及び当センター講師派遣
- ・つがる市教育委員会：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言
- ・大鰐町教育委員会：CS熟議の指導・助言及び当センター講師派遣
- ・黒石市教育委員会：研修会講師選定及び研修会内容の指導・助言

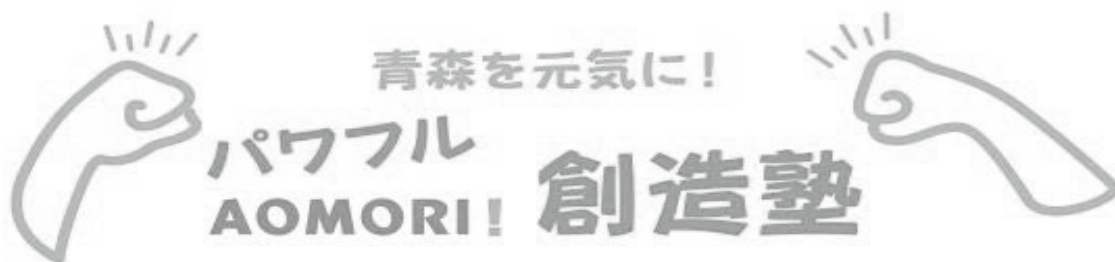


### 4 受講者の感想

- ・支援2年目として昨年度の経緯を踏まえた話合いをコーディネートいただいた。組織変革の必要性も含め、皆が自分事として考える機会となり有意義だった。
- ・初の熟議は想像以上の盛り上がりで、参加者間の交流と積極的な意見発表が見られた。特にファシリテーターの力量が重要で、話しやすい雰囲気づくりが大切だと感じた。今後も熟議を継続し、伴走型支援を活用していきたい。

### 5 成果

伴走型支援では14件の申し込みがあり、市町村からは専門的アドバイスや状況に応じた具体的な支援が求められている。申し込み件数が想定を上回ったことにより、伴走型支援の必要性が判明した。



パワフルAOMORI!創造塾は、地域づくりの担い手となる人財を育成するため、活力ある持続可能な地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的とした事業です。青森県を元気にしたいと考えている県民が塾生となり学びます。7月19日(土)に開催された第1回講座の様子をお知らせします。

## 開講式・オリエンテーション

午前中は、開講式・オリエンテーションを行いました。オリエンテーションでは、はじめに1年間見通しをもって学ぶことができるように、昨年度の様子を交えながら講座の流れを確認しました。

次に、アイスブレイク、自己紹介、ダイヤモンドランキング等を通して、塾生同士の交流を図りました。



## 講義・演習

令和7年度第37期パワフルAOMORI！創造塾第1回講座の講師は、NPO法人ACTY理事長、株式会社ACプロモート代表取締役の町田直子氏でした。

町田氏には、「地域活動って何？～そして自分の出来ること～」をテーマに、八戸市の種差海岸での実践事例をもとに、地域活動についてわかりやすくご教授いただきました。また、地域活動をするようになったきっかけやどのように活動を進めてきたのかなど、これまでの歩みをもとに具体的にお話しいただきました。



まちだ なおこ  
**町田 直子氏**

NPO法人ACTY 理事長  
株式会社ACプロモート  
代表取締役

八戸市を拠点に「世界に誇れるまちづくり」をめざして活動。地域資源に付加価値をつけることで、地域ならではの魅力を伝える観光開発など、観光を通じた地域づくりを推進している。また、環境や景観を守り続ける保全活動やグローバルな感覚で活躍できる人材育成に取り組んでいる。

## 塾生の感想

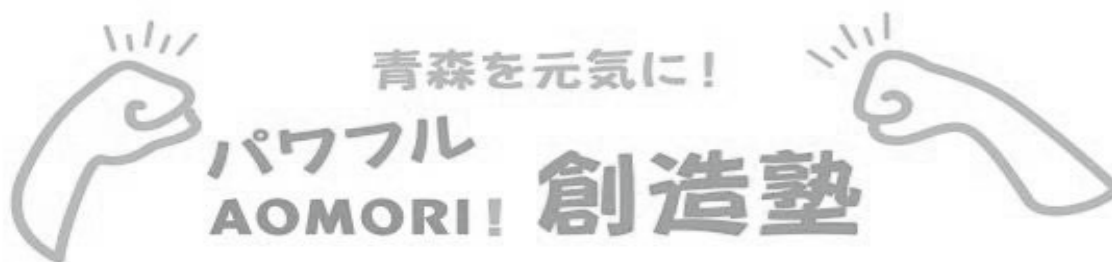
### 【オリエンテーション】

- ・世代を超えた交流ができたことがいちばん嬉しかったです。このような機会がなければ話することがないような方とも話せて、とても良い経験になりました。
- ・初めての場ということや初対面の方々が多く緊張していましたが、気さくに話しかけてくれる方々や場の雰囲気明るくなるような企画があり、楽しく過ごせたと思います。

### 【講義・演習】

- ・町田さんのお話はわかりやすく、おもしろく、実際に移住～起業までの流れ、心の変化、思いが伝わり、「自分だったら」と考えるきっかけになりました。自分の克服すべき分野が見えたように思います。
- ・町田さんの、自分の好きなことを教えたい、自分のやりたいことを実現したいという思いから活動を始めた話は、自分自身の熱量も上がるようなお話で、非常に為になりました。
- ・これからの講座がとても楽しみです。いろんなアイデアを得たいと思います。





パワフルAOMORI!創造塾は、地域づくりの担い手となる人財を育成するため、活力ある持続可能な地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的とした事業です。8月23日(土)に開催された第2回講座の様子をお知らせします。

## フィールドワーク・演習

第2回講座は、塾生が地域活動の現場を訪問し、実践者と交流したり活動に参加したりする「フィールドワーク」を開催しました。場所は鶴田町地域活性化支援センター「TSURUTA LABO」(旧鶴田町立水元中央小学校)で、講師は一般社団法人もったいない研究所 代表理事「岡 詩子」氏でした。

岡氏には、「もったいないから未来をつくる」をテーマに、講義や施設見学を通して、自身のこれまでの活動やTSURUTA LABOでの実践事例を紹介していただくと共に、すべての活動の根底にある想いについて具体的にお話いただきました。

演習では、「自分にとっての『もったいない』とは何か?」を見つめ直すワークショップを行いました。自分の大切に感じるものや価値観について内省することで、地域活動の方向性を改めて確認しました。

講義



集合写真



おか うたこ  
岡 詩子氏

一般社団法人  
もったいない研究所  
代表理事

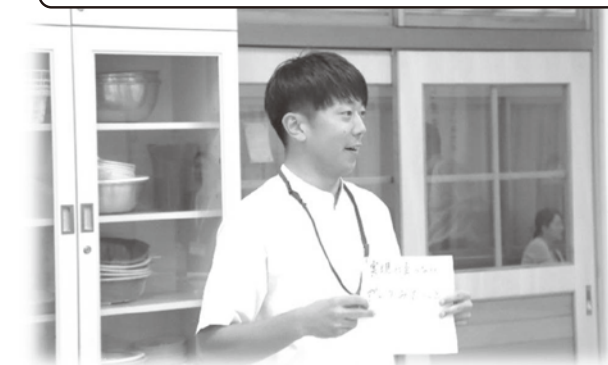
「もったいないから未来をつくる」をテーマに、人それぞれで違うもったいないという感覚を集め、探求し、つなぎ合わせて未来をつくっていく「もったいない研究所」代表理事。現在は鶴田町地域活性化支援センター「TSURUTA LABO」の指定管理事業者として、施設の管理運営、イベント企画、利用者の起業やコトはじめのサポート等を行っている。



施設見学



演習「あなたの“もったいない”とは？」



## 塾生の感想

- ・安心できる場所をつくることと、きっかけを大事にしていることにとても共感できました。これからも、より一層楽しく活動をしていきたいと、元気・パワーをもらいました。
- ・すばらしい発想、アイディア、行動力、信念があり、大変参考になりました。
- ・岡さんのパワーがすごかったです。自分が何をやりたいのか、何ができるのか考えることが大切だと感じました。
- ・地域活性化は町＝住んでいる人の思いを汲み取ることなのだと思います。
- ・もったいない研究所がとてつ心理的安全性の高い場所であることを感じました。また、自己の可能性を見出し、どんどん色んなことをやっいていこうと思いました。
- ・「もったいない」を「もったいない」のままにしないために活動しているという点は、地域づくり全体に共通する考え方なのではないかと感じました。「せっかくこの地域には〇〇があるのに知られていない」「せっかく若者が集まったのだから」「このままではこの素晴らしい〇〇がなくなってしまう」など、地域の中には活動のタネが多くあるように思います。今後、自分の活動内容などを考えるうえで、地域に「もったいない」と思うことはないかを考えることは大きなヒントになると感じました。



青森を元気に！  
パワフル AOMORI! 創造塾

パワフルAOMORI!創造塾は、地域づくりの担い手となる人財を育成するため、活力ある持続可能な地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的とした事業です。9月27日(土)に開催された第3回講座の様子をお知らせします。

講義・演習

第3回講座の講師は、わかる事務所 代表 <sup>たまきしんいちろう</sup> 玉樹真一郎 氏でした。

玉樹氏には、『『ついやってしまう』地域活動のつくりかた』をテーマに、よりよい地域づくりについて、「わかること」の重要性や、そのコンセプトを生み出す方法等について、具体例をもとにわかりやすくご教授いただきました。

講義



たまき しんいちろう  
玉樹 真一郎氏

わかる事務所  
代表

2010年任天堂から独立してUターン。全国の企業や自治体などで、コンセプト立案、プレゼン手法、デザイン等をテーマとしたセミナー、講演、ワークショップ、プレゼン等を年60回以上おこなうほか、コンサルティング、ウェブサービスやアプリケーションの開発等を行いながら、人材育成・地域活性化にも取り組む。

著書等

コンセプトのつくりかた 「つくる」を考える方法 (2012, ダイヤモンド社) 「ついやってしまう」体験のつくりかた (2019, ダイヤモンド社)

演習



集合写真



## パワフル交流会

午後は、「パワフル交流会」を行いました。過去のパワフルAOMORI！創造塾に参加した塾生と、現塾生が交流しました。

自己紹介や、4名の卒塾生による実践事例発表を経たのち、地域のために私たちができることは何か、グループで意見を交換し合い、考えを深めました。



## 塾生の感想

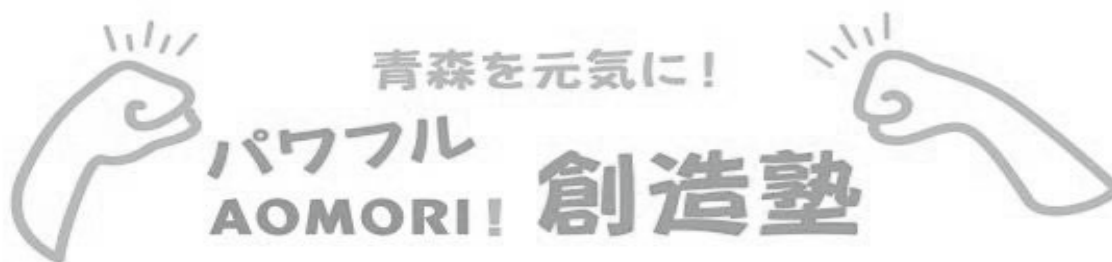
### 講義・演習

- ・ あっという間に時間が過ぎたと感じるくらいに引き込まれました。
- ・ 「わかる」「理解する」からこそ面白いということが印象に残りました。
- ・ 知らなかった世界のことを知るきっかけになりました。

### パワフル交流会

- ・ 卒塾生の実践発表が素晴らしかったです。
- ・ 卒塾生が様々なアクションにチャレンジしていて、とても素晴らしいと感じました。
- ・ 皆さんの取り組みや意見などを聞くことができ、自分の将来を考える上でとても参考になりました。





パワフルAOMORI!創造塾は、地域づくりの担い手となる人財を育成するため、活力ある持続可能な地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的とした事業です。10月18日(土)に開催された第4回講座の様子をお知らせします。

## フィールドワーク・演習

第4回講座は、塾生が地域活動の現場を訪問し、実践者と交流したり活動に参加したりする「フィールドワーク」を開催しました。場所は種差海岸インフォメーションセンターで、講師は第1回講座に引き続き NPO 法人 ACTY 理事長、株式会社 AC プロモート代表取締役の町田直子<sup>まちだなおこ</sup>氏でした。

町田氏には、「理想と現実のギャップを乗り越えて見えるもの、そしてその先にあるもの」をテーマに、施設等の見学や講義・演習を通して、環境や景観の保全、地域とのつながりのつくり方、観光を通じた地域づくりのノウハウ等々について、具体的にお話しいただきました。



集合写真



まちだ なおこ  
町田 直子氏

NPO法人ACTY 理事長  
株式会社ACプロモート  
代表取締役

八戸市を拠点に「世界に誇れるまちづくり」をめざして活動している。地域資源に付加価値をつけることで、地域ならではの魅力を伝える観光開発など、観光を通じた地域づくりを推進している。また、環境や景観を守り続ける保全活動やグローバルな感覚で活躍できる人材育成に取り組んでいる。



講義・演習





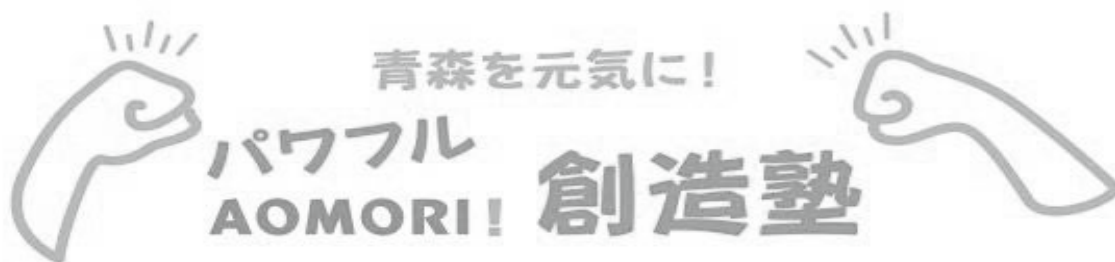
フィールドワーク



## 塾生の感想

- ・ 県外からいらした町田さんが、青森県、八戸市のために頑張ってくださっていることに感動しました。講義だけではなく、実際に現場を見せて頂いたのが、実感がわきました。
- ・ そこに来てみたいと思わせる具体的なアイデアやプランが、地元愛からくるものであると、町田さんの熱意を感じて納得がきました。
- ・ 地域づくりをする上で、「行きたい」の理由を明確化することや、付加価値をつけていくことの必要性を学びました。
- ・ NPO として何を求められているのか。営利企業として何を求めていくのか。理想をかなえるために取り組んできたことが、現実になるまでの経緯がよくわかりました。
- ・ 地域づくり活動をする上で、相手が何を求めているのかをきちんと考えて活動にしていける必要があるという点が、非常に参考になりました。
- ・ 町田さんの言葉で、「できるだけ多くの方が当事者になる」という視点が素敵だなと思いました。
- ・ 自身の取り組みでも、感動を大切にしていこうと思いました。





パワフルAOMORI!創造塾は、地域づくりの担い手となる人財を育成するため、活力ある持続可能な地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的とした事業です。11月8日(土)に開催された第5回講座の様子をお知らせします。

## 講義・演習

第5回講座の講師は、株式会社 and more 代表取締役 <sup>くじ みほ</sup>久慈美穂氏でした。

久慈氏には、「好きな場所で暮らす～今の活動を生業にするためのヒント～」をテーマに、三沢市での実践事例をもとに、地域活動についてわかりやすくご教授いただきました。地域活動をするようになったきっかけやどのように活動を進めてきたのかなど、これまでの歩みをもとに、具体的にお話しいただきました。



講義・演習



<sup>くじ みほ</sup>  
久慈美穂氏

株式会社 and more  
代表取締役

2012年に立ち上げた「Misawa Art Project」で、「2013年度地域づくり総務大臣賞」を受賞。2016年に「and more」を個人創業し、女性起業家向けシェアオフィスの運営、起業家支援、地域活性化事業プロデュースなどを手がける。

2022年6月、株式会社 and more 設立。自治体のまちづくりコーディネーターや企業の事業プロデュースなどを行なっている。



集合写真

### 発表準備

午後は、第6回講座に向け、発表の準備をしました。「地域の課題」「これまで行われてきたこと・自分のしてきたこと」「地域の資源・強み」「アクションプラン（具体的な行動案）」「地域がどのように変容するか」の5つの観点から、卒業後に取り組みたい地域活動について考え、資料づくりをしました。

12月6日（土）の最後の講座では、作成した資料をもとに、「アクションプラン発表会」を行う予定です。



発表準備

### 塾生の感想

- ・久慈さんの講義を聞くことができ、間違いなく私のやりたいことに対する気持ちが大きくなりました。
- ・何かを取り組む際、「70%しか決まっていなくてもやってみる」という言葉が印象に残りました。地域活動を考える上で、大切にしていきたい考えだと感じました。
- ・久慈さんの、「常に人を巻き込むことを意識している」「自分が全部やろうとするより、身近な課題を解決できるプレイヤーを増やすようにしている」という点が参考になりました。何か活動しようとするときは、「自分が何かやる」ということに意識が向きがちですが、自分自身ができなくても、できる人を巻き込んで任せるということも、今後の選択肢の一つにしていきたいと感じました。
- ・リノベーションについて試行錯誤しているのですが、久慈さんの企画の案やこれまでの経験が、とても参考になりました。
- ・自分のやりたいことが、必要とされていることなのか不安でしたが、他の方の意見を聞いて、参考になりました。



青森を元気に！

# パワフル AOMORI! 創造塾 第6回講座

パワフルAOMORI！創造塾は、地域づくりの担い手となる人財を育成するため、活力ある持続可能な地域づくりに係る講義・演習等を行うとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的とした事業です。青森県を元気にしたいと考えている県民が塾生となり学びます。12月6日（土）に開催された第6回講座の様子をお知らせします。

## アクションプラン発表会

最終回となる第6回講座は、アクションプラン発表会を行いました。「地域の課題」「これまで行われてきたこと・自分のしてきたこと」「地域の資源・強み」「アクションプラン（具体的な行動案）」「地域がどのように変容するか」の5つの観点から、卒塾後に取り組みたい地域活動について発表し合いました。一人一人が真剣な眼差しで発表に耳を傾け、発表後には質問をしたり感想を伝えたりしました。





### 講評

第1回目講座から講義・演習等のコーディネーターを務めていただいた町田直子氏から講評をいただきました。

講評では、塾生の想いやアクションプラン等を聴き、これまでの経験をもとにした活動する上でのポイントを御教授いただきました。



集合写真

### 塾生の感想（一年間を通して）

- ・実際に活躍されている方々の行動や考えを聞いて、自身のアクションプランをブラッシュアップすることができました。
- ・まだ明確でないビジョンについて、皆さんからのご意見、町田さんからのアドバイスで、より具体的に考えるきっかけになりました。
- ・中身の濃い講義内容と居心地の良い空間で充実した時間を過ごすことができました。
- ・みなさんの思いがとても熱くて、この先が楽しみです。機会があればまた参加したいと思います。自分たちが住む地域を知ろう、変えよう、盛り上げようとする人が増えることはとても素晴らしいと思いました。
- ・パワフル AOMORI! 創造塾では、いろんな人と会って交流を深めることの大切さや、こういう場でできる縁の大切さを強く感じました。
- ・仲間ができて良かったです。これからの人生が楽しみになりました。
- ・私一人では知り得なかった情報を沢山知ることができて感謝しかありません。新たな出会いからネットワークにつながり、今後の活動につながっていくのが楽しみです。
- ・熱い思いを持つ、人とのつながりを大事にする。言葉にすれば当たり前のこと、普通のことのように見えるかもしれませんが、それこそが、地域活動をしていく中では大事なのだと思えました。改めてそれを認識できたことが、1年間の成果だと思えます。



# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 青森で生きる未来人財育成事業(高校生地域活動促進事業) オンライン講座

配信期間:令和7年6月～令和8年2月 受講者60名

### 第1講座

【テーマ】『ボランティア』ってなんだろう？

【講師】 日本赤十字社青森県支部 主事 岩井 雄太郎 氏



#### 【経歴】

2019年から日本赤十字社青森県支部において、救急法講習や災害対応、青少年赤十字に関する業務に従事し、その中でも、青少年赤十字事業では、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、様々な活動を学校教育の中で展開している。日本赤十字社は、「人道」を理念に、国際救護・開発協力、災害救護、安全講習会普及、青少年赤十字活動、ボランティア活動、国際人道法普及など、様々な活動を行っている団体である。

#### 【講義要旨】

- ボランティア活動とは、自発的な意志に基づき、他人や社会に貢献する行為です。活動の性格として、自主性（主体性）や社会性（連帯性）、無償性（無給性）があげられます。
- 日本赤十字社の活動は多様ですが、主に国内災害救護、国際活動、医療事業、看護師養成、青少年赤十字、講習普及、血液事業、赤十字ボランティア、社会福祉の9つの活動があります。
- ボランティアを实践するうえで、相手のニーズ（需要）を考え、本当に必要としているものを提供することが大切です。「相手のニーズに気づく」「ニーズの達成のために必要なことを考える」「考えた計画を实践する」の3つのサイクルで取り組むことが必要です。

### 第2講座

【テーマ】「ボランティア活動の実際」

【講師】 弘前大学人文社会科学部 教授



弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長 李 永俊 氏

#### 【経歴】

労働経済学を専門とし、青森県を中心とした地方の雇用問題、若年者の就業状況、地域間移動等の研究に取り組んでいる。東日本大震災の発生後は、教員有志と一緒に弘前大学ボランティアセンターを設立し、弘前市と協働で岩手県野田村への支援・交流活動を展開。また、2018年から学習支援、子ども食堂、フードバンク等の活動を開始し、現在は一般社団法人みらいねっと弘前と連携して子ども居場所づくり、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。

#### 【講義要旨】

- 「チーム・オール弘前」は、弘前大学、弘前市、弘前市民、市民団体等、弘前が一丸となったボランティアチームで、災害への備えに加え、貧困や少子高齢化、人口減少等の地域課題を地域全体の力で解決していくことを目指し、活動しています。
- 自然災害のリスクを減らすことは不可能だが、復興の経験や教訓を生かし、災害から自分・家族・地域をどう守るか考えることが重要です。
- ボランティア活動は、自分の人生をより豊かにするとともに、安心・安全で豊かなまちづくりに貢献するものです。

## 青森で生きる未来人財育成事業(高校生地域活動促進事業)第1回対面講座 [西北地区]

令和7年7月13日(日)10:00～12:00 五所川原市地域福祉センター 受講者11名

### 1 内容

【テーマ】「子育て支援ボランティア

今動くことが未来を変える～現代の育児には高校生の力が必要～」

【講師】 family café あづま～る 代表 みじぼやし しゅう 藤林 秀 氏

【経歴】

平成30年から、五所川原市において月1回活動している子育てサロン family café あづま～るの代表を務めている。

これまで認可保育園や児童デイサービスにて勤務し、平成30年からは、特定非営利活動法人ほえみの会就労継続支援B型事業所プラスにて勤務しながら、NPO法人ファザーリングジャパン東北青森支部の副代表や五所川原市ボランティア連絡協議会の理事等を務めている。



【講義要旨】

- 子育て支援とは、全ての子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保されるよう、国若しくは地方公共団体又は地域における子育ての支援を行う者が実施する子ども及び子どもの保護者に対する支援と定義されている。子育て支援が必要となった背景として、地域のつながりの希薄化や核家族化の進行、共働き世帯の増加、少子高齢化と人口減少が挙げられる。
- 子育てサロンへの参加により、保護者にとっては、孤独・孤立の防止や母親同士の繋がりや醸成等につながる。高校生にとっては、仲間とのポジティブな経験が増えることで高い満足感を得ることができ、日常生活や学校生活にも活発に取り組むことができるようになる等の効果が期待できる。
- ボランティアを続けるためには、①複数のボランティア先から選んだか、②説明や振り返りが丁寧か、③自分にとって、居心地が良いか、④自分の中で満足感・達成感があつたかどうかについて振り返ることが大切である。

### 2 受講者の感想

- ・現代の母親や若者は孤独を感じていて、それを減らすためには、居場所の確保や地域で助け合うことが大切だとわかりました。私も将来、保護者の相談を受けられるような保育士になりたいと考えました。
- ・地域一体で協力的な活動ができるのはすごく良いことだと思いました。自分のためにも、他の人のためにも、『あづま～る』のようなボランティアに率先して参加していきたいと思いました。
- ・こどもと関わる機会が少ないので、貴重な体験ができて良かったです。今回のボランティアをとおして、社会やこども支援のことをもっと詳しく知り、今後の進路活動に生かしていきたいと思いました。

## 青森で生きる未来人財育成事業(高校生地域活動促進事業)第2回対面講座 [中南地区]

令和7年7月19日(土)10:00~12:00 弘前市運動公園陸上競技場 受講者7名

### 1 内容

【テーマ】「スポーツボランティア」

【講師】 株式会社ブランデュー弘前 代表取締役 にしざわ ゆうき 西澤 雄貴 氏



【経歴】

2012年にNPO法人弘前Jスポーツプロジェクトを母体に発足したブランデュー弘前FCにてチームキャプテンとして活動し、2015年に現役引退後、同プロジェクトの副理事長を務めた。

2019年10月、弘前からJリーグを目指して活動しているサッカーチーム「株式会社ブランデュー弘前」を設立し、代表取締役として、サッカーを通じたまちづくりやスポーツ環境の整備、地域課題の解決を目的として活動している。

【講義要旨】

- 株式会社ブランデュー弘前は、スポーツイベントを通して、スポーツの振興や競技の普及、施設環境整備に加え、地域住民の健康づくりや生きがいづくりを目指している。また、試合観戦に加え、飲食ブースの設置など、併せて行うイベントのエンターテインメント性を高めることで、地域の活性化や経済効果の高まりにつなげられるよう、取り組んでいる。
- スポーツが国や地域に与える経済効果は地方都市であるほどメリットが大きく、ホームタウンの知名度向上は地域住民の大きな楽しみとなり、地域の一体感の高まりや誇りの醸成につながる。
- ボランティアスタッフがサポートすることにより、応援に来るサポーターの応援に対するモチベーションが向上し、会場の雰囲気の高まりや選手のモチベーション向上にもつながることから、ボランティアスタッフもチームの一員であり、勝敗にも関わる重要な役割を担っている。
- スポーツ大会やスポーツチームの運営、地域イベントなどには多くのボランティアの力が必要であり、活動に積極的に参加することは、地域活性化に向けた取組の一つとなる。

### 2 受講者の感想

- ・スポーツはするのも楽しいし、見るのも楽しいけれど、その裏には、準備などを頑張ってくれるボランティアの人の支えなどがとても大事だとわかりました。
- ・スポーツに限らず、身近な場所にボランティアを必要としている人たちがいると思うので、自分から情報を集めて、積極的に参加したいと思いました。
- ・小さいことかもしれないけど、実際に自分の行動が人の役に立っているという満足感を感じることができました。また実際に出向いて、ボランティア活動をしたいと思いました。
- ・スポーツビジネスによる経済効果が大きいことがわかり、スポーツビジネスを発展させることで、地域社会が盛んになると感じました。

## 青森で生きる未来人財育成事業(高校生地域活動促進事業)第3回対面講座 [上北地区]

令和7年7月26日(土)10:00~12:00 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 受講者8名

### 1 内容

【テーマ】「地域とともにほぐくむボランティア活動」

【講師】(特) 十和田NPO子どもセンター・ハピたの

代表理事 なかざわ ようこ  
中沢 洋子 氏



### 【経歴】

平成17年に十和田NPO子どもセンター・「ハピたの」を立ち上げ、平成22年には、コミュニティカフェ「ハピたのカフェ」をオープン。カフェから～地域で子どもを育てる～を起点とし、子どもたちが、社会の中で、子どもたちが自分らしく生きぬいていくための事業を展開している。

平成24年には、「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」の内閣府特命担当大臣表彰、平成25年には青森健康づくり奨励賞、あおもりコミュニティビジネス表彰・青森県知事賞を受賞している。また、平成25年から8年間、「青森県教育委員」を務めた。

### 【講義要旨】

○NPOとは、自分の意志で自ら進んで人や社会に貢献すること、社会に存在する様々な課題の解決に取り組むことを目的とした団体である。十和田NPO子どもセンター・ハピたのは、子どもたちが地域で豊かに育つこと、社会の中で生きぬくことをねがい、地域で子どもの育ちを支えるための活動を続けている。

○コミュニティビジネスとは、収益性を確保しながら地域課題の解決に継続的に取り組む事業活動である。市民が主体となって地域が抱える課題をビジネスの手法で解決するとともに、コミュニティの再生を通じて、活動の利益を地域に還元することを目的とし、持続可能なボランティア活動にもつながる。

○子どもたちがたくさんの地域の大人たちと出会うことで、「人とのかかわり」や「あたたかなつながり」を学ぶことができ、自ら考え、自ら判断し、責任をもって行動する、「社会で生きて働くための力」を身につけることにつながる。

### 2 受講者の感想

- ・地域の人たちと関わることで多くの学びになると知ることができたので、今後、ボランティア活動などを通してたくさんの人たちと関わってみたいと思いました。
- ・いろいろな人と意見交換ができ、おもしろいアイデアや地域を活性化させるための方策など、自分では考えつかない内容がたくさんあって楽しかったです。
- ・違う地域の高校生と交流することで、お互いの地域の良さと課題を改めて確認することができたので、これからの活動に生かしていきたいです。
- ・ワークショップでは、自分が思いつかないようなアイデアを聞くことができて良かったです。私も頭をやわらかくして、地域のためにできるより良いことを考えていきたいと思いました。

青森と自分の未来を“カタル”！「キャリアサポ」事業

大湊高校 ワークショップ

1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	大学生と直接交流することで、視野を広げ、自分の目標を考える機会とする。
ワークショップ終了後の目指す姿	自分の目標や社会のことについて、積極的に考えることができるようになる。

2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「道しるべ」

このワークショップのカテゴリーは「将来の進路（夢）、コミュニケーション」で、実施する目的は、「大学生と直接交流することで、視野を広げ、自分の目標を考える機会とする。」であることを踏まえて、テーマを「道しるべ」として進めます。

このテーマとした理由は、夢に向かって努力するとき、何か新しいことに挑戦するとき、常に「人と直接関わり、誰かのために行動できる人になりたい」というなりたい姿が自分の軸としてありました。この自分の中にある軸が、これからの進路選択や新たな挑戦につながり、そして自分を導き支えてくれるものになると考えたからです。これまでの生活の中で自分が大事にしていることやこれから大事にしていきたいと思っていることが自分の軸となり、夢をかなえるために努力するときも、夢を諦めざるを得なくなったときも、そして夢をかなえた後にも原動力になると考えます。

これらのことを、この企画を通して意識しながら進めていき、「大学生と直接交流することで、視野を広げ、自分の目標を考える機会とする。」というワークショップ終了後の目指す姿の達成を目指していきたいと考えます。

3 参加生徒数

第1・2学年 198名（男子87名 女子111名）
---------------------------

4 報告

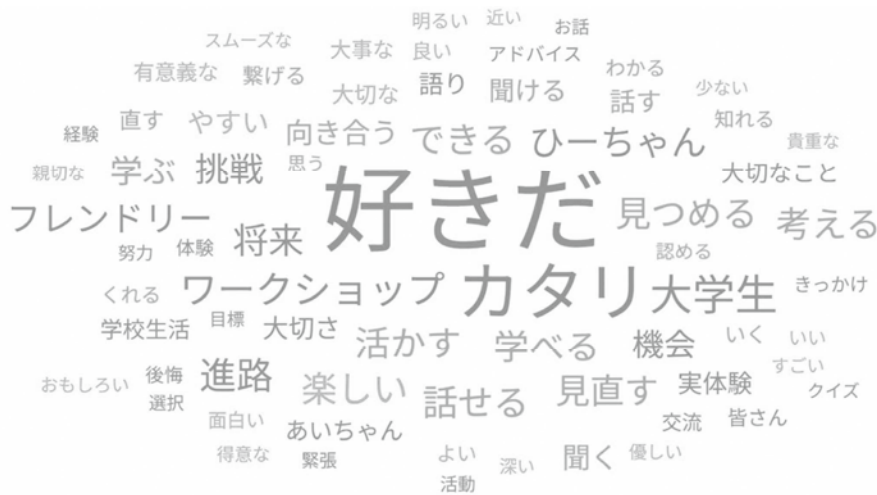
(1) 参加生徒へのアンケート結果（有効回答数188名、有効回答率94.9%）

ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか？	3.86
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	3.84
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	3.84

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

イ 自由記述によるテキストマイニング分析



とても楽しく有意義なワークショップで、ミニゲームやクイズで緊張がほぐれた結果、短時間でも多くを学べたと参加者は評価している。そして大学生の語りや実体験に触れることで親近感が生まれ、話しやすい雰囲気の中で率直に相談や雑談ができたため、人間関係やコミュニケーション面でも良い経験となり、参加者同士や大学生との交流が深まった。また大学生から直接アドバイスや具体的な学びを得たことが進路選択や将来設計の見直しにつながり、多くの参加者が今後の学校生活や行動に活かそうという意欲を持った。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は？	4
2 学校としての実施目的の達成度は？	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	5

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 五所川原工科高校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	大学生との対話を通して、志望する学部・学科を具体的に決定できるように視野を広げさせたい。
ワークショップ終了後の目指す姿	大学で学ぶ学生の姿勢を受け止め、自分の目標を再確認し、志望する大学・学部・学科を具体的に絞り込んでいくことができる。

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「 Tokimeki 」

このワークショップのカテゴリーは、「将来の進路」です。実施する目的は「大学生との対話を通して、志望する学部・学科を具体的に決定できるように視野を広げさせたい。」であることからテーマを「Tokimeki」にしました。このテーマにした理由は以下の通りです。  
 高校生が進路について考えるとき、「こうであるべき」「将来のためにとりあえず」「堅苦しいもの」というイメージが多いと思います。そうなってしまうと、たくさんある進路の幅も狭まってしまうのではと考え、高校生の中にある「Tokimeki」から掘り下げて進路について考えていこうという企画にしました。

今回扱う「Tokimeki」の定義としては、“少しでも心が動かされたもの”です。例えば「好きなもの・こと・人」「なんか気になる」「面白そう」「かっこいい」などちょっとしたことです。  
 「Tokimeki」を基盤にしてワークショップを進めていき、最後に詳しい進路を決定し、目標を立ててもらいます。ですが全員が最終的な進路に繋がらずとも、進路に迷ったとき、将来別の道に進もうと考えたとき、本当にやりたいことは何かを考えたときなど、人生のどこかで手助けになればいいと思います。

### 3 参加生徒数

第2学年 66名
----------

## 4 報告

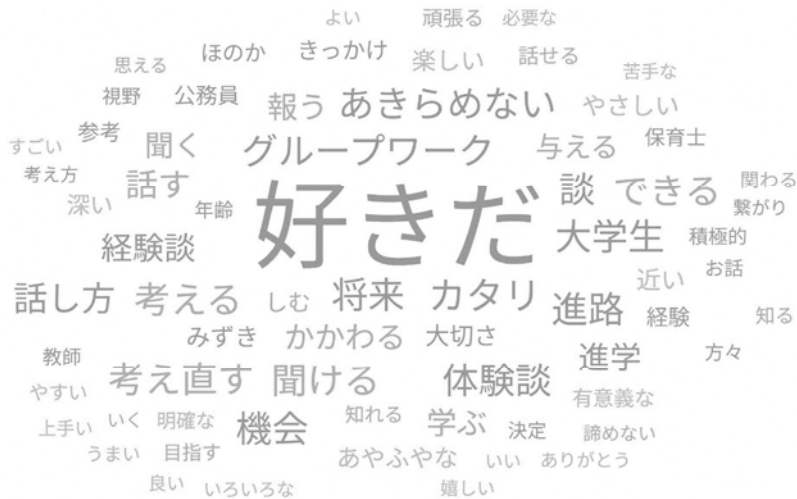
(1) 参加生徒へのアンケート結果（有効回答数45名、有効回答率68.1%）

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか？	3.80
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	3.73
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	3.67

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



大学生の話やグループワークを通じて、年齢の近い先輩の体験談や励ましにより進路や志望が明確になり、迷っていた職業と自分の好きなことつながりが見えたりその場で家族と相談して進路を決められるなど有意義な学びが得られたと多くの参加者が述べている。そして大学生の工夫された語り口や物語形式の発表が聞きやすく具体的な努力の方向や人との関わり方が示されて励みになったので、今後何を頑張ればよいか分かり前向きに進路を考えるきっかけになったと評価されている。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は？	4
2 学校としての実施目的の達成度は？	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	5

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 藤崎中学校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	互いに尊重し、歩み寄りの活動をすることで、さらによりよい人間関係づくりを行い、ふるさとへの興味関心を深め、自己の進路選択の一助とする。
ワークショップ終了後の目指す姿	地域の先輩である大学生たちと交流することを通して、将来についての見通しを考えることができる。

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「ふるさと」

この企画のカテゴリーは、将来の進路とコミュニケーションで、実施する目的が「互いに尊重し歩み寄りの活動をすることで、さらによりよい人間関係づくりを行い、ふるさとへの興味関心を深め、自己の進路選択の一助とすることを目的とする。」であることから、テーマは『ふるさと』としてワークショップを進めます。

このテーマとした理由は以下の通りです。

ふるさとは「家族や友人、地域の人との思い出がたくさん詰まっている大事な場所」だということ、そして自分の長所や特技などは、ふるさとの環境の中で培われてきたものであることに気づき、自分の良さや仲間の良さを認め合うことで、自分の長所を発見または再発見することが、それぞれの進路選択の一助として有効ではないかと考えるからです。

上記のことを意識しながら、「地域の先輩である大学生たちと交流することを通して、将来についての見通しを考えることができる。」の達成を目指していきたいと考えます。

### 3 参加生徒数

第3学年 66名

### 4 報告

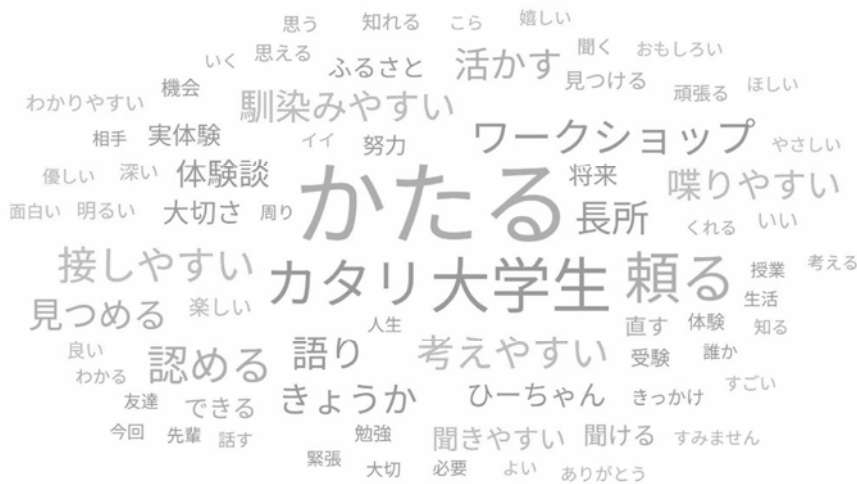
(1) 参加生徒へのアンケート結果（有効回答数53名、有効回答率80.3%）

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか？	3.79
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	3.87
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	3.84

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



大学生によるワークショップを通して、多くの参加者が自分や仲間の良い点を再発見し、将来や受験に向けて前向きに考えられるようになったと述べている。大学生たちが明るく親しみやすい雰囲気でも語りかけ、実体験に基づく具体的な受験や勉強の話を開けたことで、緊張がほぐれ楽しく学べたことが繰り返し評価されている。また「誰かを頼ること」や「自分の努力を認めること」の重要性に気づき、比べすぎず自分なりのやり方で取り組む姿勢や、努力を自分で肯定する習慣を持つとうという決意が多く示された。

#### (2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は？	5
2 学校としての実施目的の達成度は？	5
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	5

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。



# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 柴田学園高校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	<input type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	人生の先輩である大学生の話聞くことにより、自分の将来の進路について考えるきっかけとしたい。
ワークショップ終了後の目指す姿	先輩の意見や経験に共感し、自分の将来について考え、進んで行動できることのできる姿を目指したい。

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「 FUTURE STREET 」

この企画のカテゴリーは、「将来の進路(夢)」、「コミュニケーション」で、実施する目的は、「人生の先輩である大学生の話聞くことにより、自分の将来の進路について考えるきっかけとしたい。」であることから、テーマは「FUTURE STREET」としてワークショップを進めます。このテーマとした理由は2つあります。

1点目は、これからの高校生活で曖昧な進路選択をして過ごしてほしくないからです。私自身、高校1年生のときから、将来の夢を決めていたものの、「将来のために、今からしなければならぬこと」を考えていなかったことを後悔しています。このワークショップを通して、自分を見つめ直し、このワークショップでは、納得することのできる進路選択をしてほしいと思います。

2点目は、「将来の道」を切り開いてほしいと思ったからです。そのため、将来何をすればいいかわからないと悩んでいる高校1年生に対して、大学生と対話することで、すべきことが見つかったり、決まったりすることでどんどん将来に向けて進むことができると思います。このワークショップを通して、将来の進路に向けて考えることの大切さを実感してほしいと思います。

これらのことから、2点の目的を意識しながら進めていき、ワークショップ終了後の目指す姿の達成を目指していきたいと考えます。

### 3 参加生徒数

第1学年 142名
-----------

### 4 報告

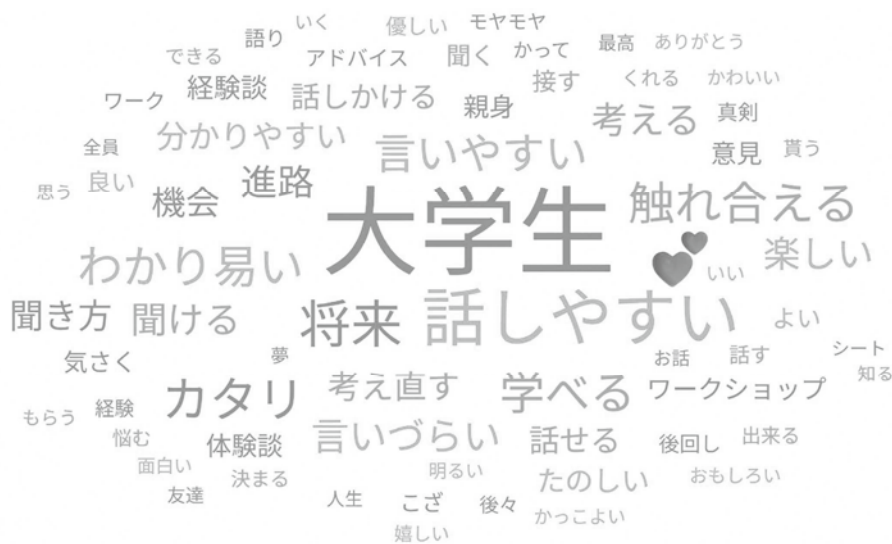
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数70名、有効回答率50%)

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.70
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.67
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.68

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



大学生との交流を通じて具体的な体験談や親しみやすい雰囲気が提供され、進路への不安が軽減されて今後の行動意欲が高まったと多くの参加者が感じており、ワークショップの分かりやすい進行や対話形式の活動が自己見直しのきっかけとなった。そして、大学生の多様な意見や親身な対応により新たな視点や安心感が得られ、進路選択の方向性が定まりやすくなったため参加者は感謝と前向きな期待を抱いている。

#### (2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	5
2 学校としての実施目的の達成度は?	5
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	5

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 六ヶ所高校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input checked="" type="checkbox"/> 多様な価値観 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	価値観や視野を広げ、今後の高校生活や進路活動に有益につなげる。
ワークショップ終了後の目指す姿	大学生との交流を通じて、生徒自らが広い視野で将来のことを考えるとともに、夢や志の実現に向けて主体的に行動できるようになること。

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「 361° 」

この企画のカテゴリーは大学進学、将来の進路、多様な価値観、コミュニケーションで、実施する目的は「価値観や視野を広げ、今後の高校生活や進路活動に有益に繋げる」であることから、テーマは「361°」として企画を進めます。

私は高校時代、興味を持った職業に対して「難しそう、できなさそう」といった先入観・固定概念から、今の自分に不足している能力と向き合おうとせずに進路選択してしまったことを後悔しています。

今回のワークショップでは、自分の能力・性格といった固定概念(360°)に囚われず、大学生との対話を通して、自分の中にある固定概念に気づき、新しい自分や価値観の発見に繋げる第1歩(361°)になることを目指します。

これらを意識しながら進めていき、「大学生との交流を通じて、生徒自らが広い視野で将来のことを考えるとともに、夢や志の実現に向けて主体的に行動できるようになること」というワークショップ終了後に目指す姿の達成を目標とします。

### 3 参加生徒数

第1・2学年 64名
------------

## 4 報告

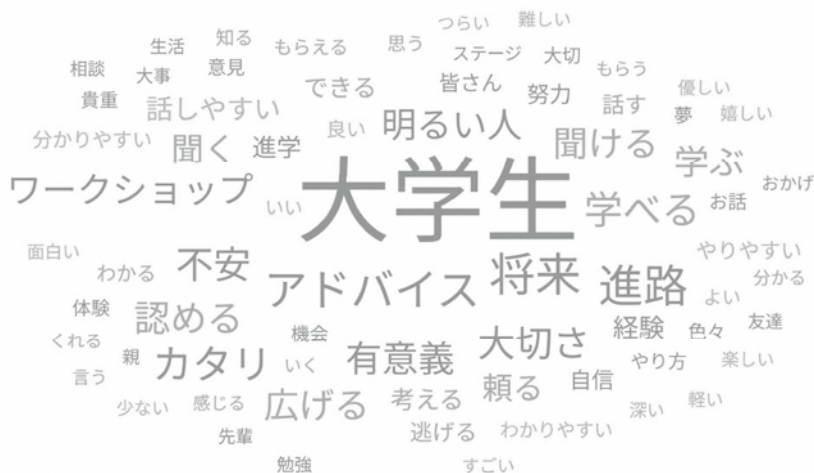
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数58名、有効回答率90.6%)

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.84
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.79
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.76

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



ワークショップで大学生の具体的な経験談や進路の実際を聞くことで、多くの参加者が不安が和らぎ自信を取り戻し、効率的な勉強法や進路選択の具体的な助言を得て自己の努力や自分らしさの重要性を再認識し、好きなことを夢にする意義や夢に誇りを持つことが励みになって将来を深く考え直すきっかけとなった。また率直な体験談により「自分だけが悩んでいるわけではない」と安心して相談できる雰囲気生まれ、受験や進学後の生活に関する具体的な対策や解決の糸口が見え前向きな気持ちや一歩踏み出す勇気を得た人が多く見られた。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	4
2 学校としての実施目的の達成度は?	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	4

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 黒石高校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画の категория	<input type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	年齢の近い大学生がどのように高校生活を過ごし、何に悩み、どう解決してきたのかを聞くことで、生徒各自の進路決定に役立てる。
ワークショップ終了後の目指す姿	主体的・計画的に進路を選択することを、自分のこととして捉えることができる。

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「チャレンジ」

この企画の category は「将来の進路(夢)」で、実施する目的は、年齢の近い大学生がどのように高校生活を過ごし、何に悩み、どう解決してきたのかを聞くことで、生徒各自の進路決定に役立てることから、テーマは「チャレンジ」として企画を進めます。

理由は、わからなかったことがわかったり、できなかったことができるようになったりする体験を通して、自分にもできるようになる力があることを知ってほしいからです。

このような目的を意識しながら進めていき、今まで知らなかった自分に会ってほしいです。そして、自分も「ちょっとでもやってみたらできるかもしれない」「わかるかもしれない」という気持ちを原動力に、実際に興味を持ったことに希望を持って、行動に移してほしいと考えます。

### 3 参加生徒数

第1学年 131名
-----------

## 4 報告

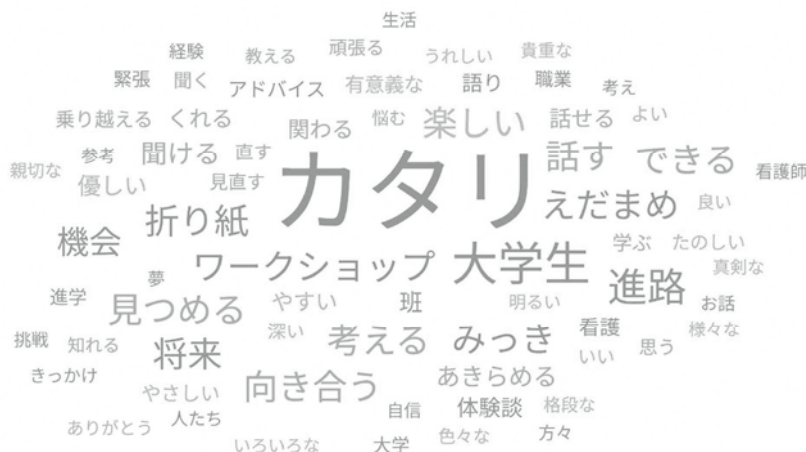
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数123名、有効回答率93.8%)

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.85
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.80
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.85

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



大学生との対話や折り紙・ゲームを取り入れたワークショップは、高校生の緊張を和らげつつ先輩の具体的な体験談や進路選択の実例、勉強法や失敗からの克服法が好評で、励ましや具体的なアドバイスにより「今やるべきこと」や選択肢が明確になって不安が軽減され視野が広がったと多くの参加者が感じており、班活動での意見共有や大学生による積極的な声かけが協力や共感を生み折り紙での成功体験が挑戦意欲を高めるなど実践的な効果も確認された。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	4
2 学校としての実施目的の達成度は?	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	3

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 五所川原第二中学校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画の категория	<input checked="" type="checkbox"/> 高校・大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	本事業の活動を自分の将来や生き方に関して考えるきっかけとし、よりよいキャリア形成を図ろうとする意識を高める。
ワークショップ終了後の目指す姿	将来や生き方について主体的に考え、普段の生活の中で活かそうとする生徒

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「可能性」

このワークショップの категорияは将来の進路で、実施する目的は「本事業の活動を自分の将来や生き方に関して考えるきっかけとし、よりよいキャリア形成を図ろうとする意識を高める。」であることから、テーマは「可能性」としてワークショップを進めます。

このテーマとした理由は、このワークショップを通して、中学生の皆さんの前にあるたくさんの可能性に気づいて欲しいということです。このワークショップで自分が将来やりたいこと、続けていたいこと、挑戦したいことについて向き合い、考えていくことを通して、目の前のたくさんの可能性に気づくきっかけとして欲しいです。また、自分の将来についてわくわくしながら考える時間を大切にしたいです。

この目的を意識しながら進めていき、将来や生き方について主体的に考え、普段の生活の中で活かそうとする生徒の達成を目指していきたいと考えます。

### 3 参加生徒数

第1～3学年 46名

## 4 報告

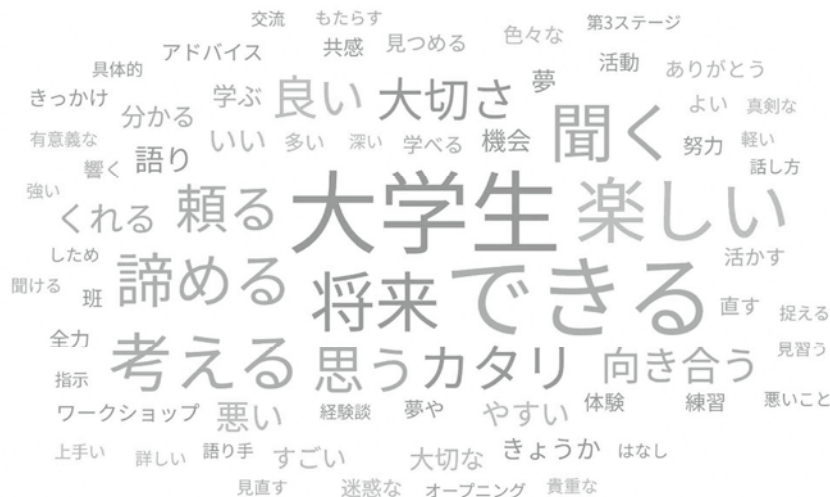
(1) 参加生徒へのアンケート結果（有効回答数46名、有効回答率100%）

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか？	3.80
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか？	3.72
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか？	3.74

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



大学生の語りやワークショップを通して、参加者は「諦めることは必ずしも悪ではない」「誰かに頼ることは必要で迷惑ではない」と学び、自分と向き合い将来や夢について具体的に考え直す機会を得た。語り手の実体験に基づく話し方が説得力を持ち、フレンドリーで話しやすい雰囲気が場をつくり、グループ活動やゲームを通して楽しく学べた点が好評だった。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は？	5
2 学校としての実施目的の達成度は？	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか？	4

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 道仏中学校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 高校・大学進学 <input type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	年上の大学生との交流や意見交換を通して、自分自身の今と将来について向き合うきっかけを作るとともに、自己の変容を目指して努力することを通して、キャリア形成につなげる。
ワークショップ終了後の目指す姿	夢や志の実現に向かい、力強く前進し努力する姿

### 3 参加生徒数

第1～3学年 43名
------------

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「 Antenna (アンテナ) 」

この企画のカテゴリーは「将来の進路」です。実施する目的は、①「年が近い大学生と心を開いて意見交換をする」、②「自分の将来について考えるきっかけを作る」、③「自分の経験から得た強みを今後のキャリア形成に生かす」の3つです。

テーマは「アンテナ」としてワークショップを進めていきます。このテーマとした理由は2つあります。

1つ目は、中学生のみなさんに、色々なことにアンテナを張って生活することが重要だと知ってほしいからです。私たちは「アンテナを張る＝関心を持つ」と定義し、中学生のみなさんが、これからの長い人生の中で、すべての人や物、出来事に関心をもって生活してほしいと思っています。その理由は、「心が動く印象的な瞬間に出会う」ことができるからです。ですから、今回のワークショップでは、アンテナを張って生活することの重要性をわかってもらえるような内容で進めていきます。

2つ目は、アンテナを張ることで得られた「印象的な瞬間」を積み重ねていくことで、自分の強み(長所)を生かせる職業に就いてほしいからです。そして、中学生のみなさんが職業を決める際に、「迷いなく自分がやりたいことはこれだ!」と自信を持って言えるような職業に就いてほしいと考えています。そうすることで、やりがいを感じながら、楽しく仕事をすることができ、有意義な人生を歩むことができるはずです。

これらのことから、「アンテナを張って生活することの重要性を理解してもらうこと」を意識して進めていき、ワークショップ終了後の「迷いのない進路決定」の達成を目指していきたいと考えています。

### 4 報告

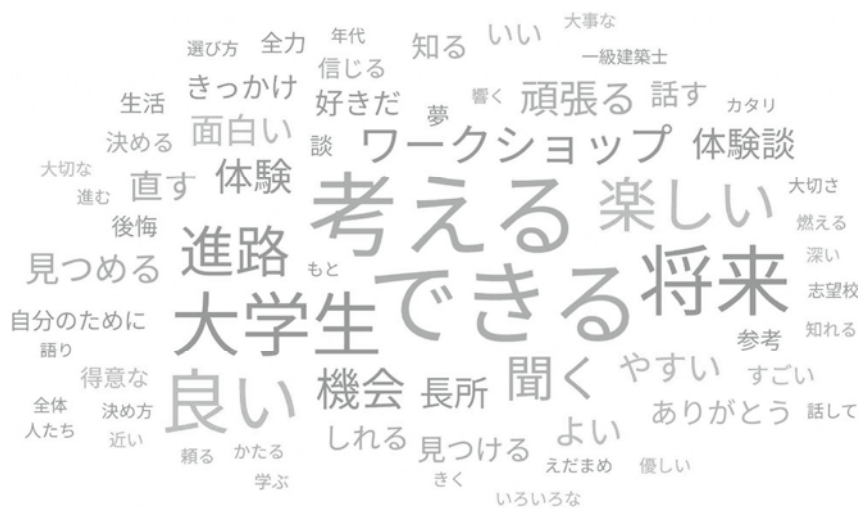
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数42名、有効回答率97.6%)

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.95
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.95
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.74

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



いろいろな年代の先輩たちの体験談を聞き、ワークショップで多くの大学生と直接交流したことで、参加者は自分の将来や進路について具体的に考えられるようになり、好きなことや得意なこと、長所を再認識して志望校や将来の夢を定めたり進路決定の方法を理解したりしたと多くが述べており、聞きやすい工夫や活発な交流により目標設定のイメージが湧き、自分を見つめ直して後悔のない選択をしたいという前向きな意欲を持つようになった。

#### (2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	5
2 学校としての実施目的の達成度は?	4
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	4

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

# 青森県総合社会教育センター主催事業報告

## 八戸工業大学第二高校 ワークショップ

### 1 ワークショップに係る学校の要望等

企画のカテゴリ	<input checked="" type="checkbox"/> 大学進学 <input checked="" type="checkbox"/> 将来の進路 <input type="checkbox"/> 多様な価値観 <input type="checkbox"/> コミュニケーション <input type="checkbox"/> その他
実施する目的	進路探求の一環として行う。高校からその先の人生をどのように考えるかを実際の先輩たちの例から自身に落とし込む。
ワークショップ終了後の目指す姿	「高校卒業の進路」という近くて遠い未来について自分で考えられる生徒になる。

### 2 要望を受けた上でのワークショップのテーマ

テーマ「 +1 」

この企画のカテゴリは「大学進学」「将来の進路(夢)」で、実施する目的は、進路探究の一環として行う。高校からその先の人生をどのように考えるかを実際の先輩たちの例から自身に落とし込むということから、テーマは「+1」として企画を進めます。このテーマとした理由は二点あります。

一点目は考えることです。進路について考える機会がないとしても、どんな時でも高校生が自ら進んでもう一度「考える」という経験してほしいからです。二点目は選択肢を増やすことです。1つだけでも進路の選択肢を増やしておくことで、より自分の夢に自信の持てる材料としてほしいからです。

(Ex. ○○の夢を叶えるためには○○の大学だけではなく、○○大学もある)  
 (Ex. 子どもに携わりたいなら、教員だけでなく、保育士もある)

このワークショップを通して、進路について考える楽しさを知ってほしいです。そして、このワークショップでやったことをこれからの生活に生かし、自分で自分の進路について考えることができる生徒になることを目指していきたいと考えます。

### 3 参加生徒数

第1学年 166名
-----------

## 4 報告

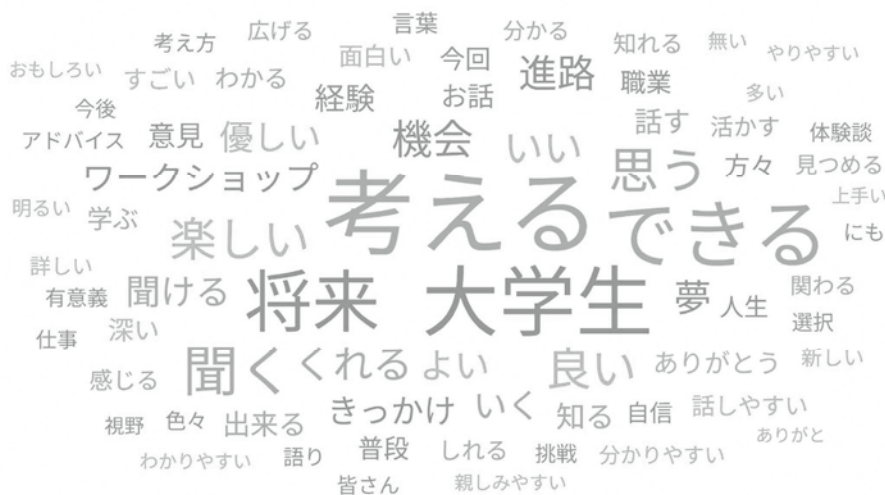
(1) 参加生徒へのアンケート結果 (有効回答数153名、有効回答率92.1%)

#### ア 有意義度調査

1 ワークショップは有意義でしたか?	3.76
2 ワークショップでの活動において「今の自分・これまでの自分」を見つめなおす機会となりましたか?	3.64
3 ワークショップでの活動は「将来の自分・進路選択」について考える機会となりましたか?	3.62

※アンケートはすべて4件法で実施。数字が多いほうが高評価。

#### イ 自由記述によるテキストマイニング分析



いろいろな年代の先輩たちの体験談を聞き、ワークショップで多くの大学生と直接交流したことで、参加者は自分の将来や進路について具体的に考えられるようになり、好きなことや得意なこと、長所を再認識して志望校や将来の夢を定めたり進路決定の方法を理解したりしたと多くが述べており、聞きやすい工夫や活発な交流により目標設定のイメージが湧き、自分を見つめ直して後悔のない選択をしたいという前向きな意欲を持つようになった。

(2) 学校へのアンケート結果

1 ワークショップの満足度は?	5
2 学校としての実施目的の達成度は?	5
3 生徒がワークショップへ参加している様子から、進路や目標を明確に意識できる様子が見られたか?	4

※アンケートは5件法で実施。数字が多いほうが高評価。

## 高校生スキルアッププログラム推進事業

### 1 事業目的及び概要

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

### 2 令和7年度事業実績

〈事業内容及び結果〉

(1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

- ・参加校数 22 校 (参加人数 2,806 名)
- ・認定証 56 件
- ・奨励証 54 件

(2) 担当者説明会の実施

- ・5/12 (月) : オンライン開催

(3) 評価サービス

- ・計 110 件の評価を実施

(4) 県民カレッジとの連携

- ・県民カレッジ新規入学者数 746 名

〈成果〉

- ・認定証と奨励証の交付者数が、目標としていた 100 件を超えることができた。
- ・学校外学修情報の提供 (高校生スキルアップNEWS) が 34 件となり、昨年度の件数を上回ることもできた。

### 3 参加者の感想

・自分の視野が広がったなと感じました。将来の方向性をより固めることができたし、こういう仕事をしたとか、こういう人を助けたいとか、より深く考えるきっかけになりました。自分の道が広がったというか、スキルアッププログラムじゃないとできない経験だったなと思います。

・知識や関心、興味を身につける機会になったと思います。今まで以上に、いろんなことに興味を持てるようになったし、ネットや身近な人に教えてもらった情報じゃなく、もっと深い知識を学ぶ機会になりました。

・コミュニケーション力が伸びたと思います。以前は自分から話しかけるタイプではなかったですが、積極的に話しかけた方が人間関係がうまくいきやすいなと思いました。色々な人と関わることで、人との話し方が身についたと思います。

・青森のことを、なんとなくいいところだな、くらいにしか思っていなかったのが、学校外活動を通して地域の子どもたちや保護者とたくさん関わる中で、青森の良さを知り、地域関係の仕事に就きたいきっかけになりました。

## 令和7年度 地域と学校をつなぐキャリア教育研修会

令和7年 9月 4日(木) 外ヶ浜町立蟹田中学校 受講者14名

令和7年11月 5日(水) 十和田市立大深内中学校 受講者14名

### 1 内容

【テーマ】 講義「地域におけるキャリア教育の意義と役割について」  
見学「地域住民による社会人講話  
～働く人と生徒との対話集会～」

【進 行】 県総合社会教育センター職員



#### 【講義要旨】

- 子どもたちを取り巻く環境の変化により、学校が抱える課題も複雑化・困難化している。そのため、学校と社会が連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を育む必要がある。
- キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる資質、能力、態度を培うことを通して、キャリア発達を促すもの。
- キャリア教育で培いたい資質、能力、態度は、「自己をみつめる力」、「つながる力」、「動く／生かす力」であり、それらを支える心は「自分自身を大切に思う気持ち」や「ふるさとを誇りに思う気持ち」である。特に「郷土への愛着や誇り」は、地域の大人との関わりによって育まれる。

### 2 受講者の感想

#### (東青地区)

- ・地域の大人が子どもたちを育てる、ふるさとへの愛着をもつことで地元に戻るきっかけづくりになるなど、講義の内容に加え、参加者同士の意見交換が有効で、学びが多かった。
- ・これまで、地域のことと学校のこととは別なものという感じがしていたが、地域の力をお借りしながら働くことを考えていくことで、より深い学びになるのだと考えることができた。
- ・中学生の興味に対して、仕事の話だけでなく、自分自身の人生の話や失敗をどう乗り越えたかなど、人として感心できる話が多く、大人が聞いてもとても勉強になった。



#### (上北地区)

- ・キャリア教育は学校だけでなく、地域の力も必要になってくると感じた。職業、仕事内容、企業を知ること大切だが、就職したきっかけや働いてみてどんなことを得られたかなどについて、生徒が知る機会を増やしていくことが今後必要だと思った。
- ・どの講師の方も、聞いている生徒に響く内容で話し、意見を引き出すような問いかけをしていた。特に日常の様々なことがキャリア教育につながっているということ意識できたと思う。
- ・視野の広がる企画だと思った。講師の方々がいずれも魅力的で、地域のことを誇りに思っていることが伝わってきて、キャリア教育に適した人材だと感じた。



## 地域に根ざしたキャリア教育推進フォーラム

令和7年10月24日(金) 青森県総合社会教育センター大研修室 受講者数 74人

### 1 内容

【表彰式】「あおりキャリア教育応援企業表彰」

【講演】「ちいさなしあわせを重ねあわせる  
～『ふるさと』をつくるキャリア教育を考える～」

講師 大正大学地域創生学部  
教授 牧野 篤 氏

【意見交換会】

「企業側からみたキャリア教育の実際」  
～あおりキャリア教育応援企業表彰者の声を聴く～

【講師経歴】

大学院博士課程修了後、1992年から名古屋大学大学院教育学研究科・教育学部助教授、2008年からは東京大学大学院教育学研究科・教育学部教授に就任し、2025年3月に退職。現在は大正大学創生学部教授を務める。また、中央教育審議会生涯学習分科会委員、第4期教育振興基本計画特別部会委員、農林水産省農村 RMO 推進研究会アドバイザー等を歴任し、各地の自治体と社会教育についての共同調査やまちづくり事業などを展開している。主な著書は、『「ちいさな社会」を愉しく生きる』（さくら舎、2024年）、『公民館を再発明するー小さな社会をたくさんつくる・3』（東京大学出版会、2024年）、『公民館をどう実践してゆくのかー小さな社会をたくさんつくる・2』（東京大学出版会、2019年）などがある。



### 2 講演要旨

- 少子高齢人口減少社会から人生100年社会へ。高齢者への対応から、こどもたちを主役に持続可能な社会をつくる。
- 小学生時代にボランティアなどの経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる。参加・協力を経験したこどもは、他者のために行動することを好み、利他性と互惠性が高まり、他人への協力を好み、国への誇りを持つようになる傾向がある。
- PDCA から AAR (A : Anticipation (見通し)、A : Action (行動)、R : Reflection (振り返り)) へ方法論を変えることで、大人と触れあい、認められ、役立てることを知り、地域に魅力を感じ、「かかわり」が「ふるさと」になる。
- 「ふるさと」をつくる、「ふるさと」に生きる全員が当事者として「よきこと」をつなげ、次の世代にかかわることで、「よきこと」が連鎖し、「よき社会」が生まれる。

### 3 受講者の感想

- ・世代が違うから分かち合えないと初めから諦めずに、互いを認め合い、よい人間関係の中で誰もが力を発揮できる職場づくりにつなげてみたいです。
- ・地元がいい。地元に残りたい。戻ってきたい。そういうこどもが大人になっていく地域にするために、大人がこどもともっとかかわる人になり、地元のことを知ってもらうことが大切だと思います。
- ・こどもたちが地域の大人と関わる場があり、島根県益田市のように自分たちの役割があることで、ふるさとに対し役に立ちたいと思える青森県をすぐにやってみたいと思いました。
- ・働くということ、好きなこと、それにこどもたちがどう関わるか。いわゆる勉強だけでなく、授業カリキュラムの一つとして、知る、体験する機会を教育の場でつくることを検討してほしいと思いました。
- ・地元の企業としてふるさとに根付きたい、こどもたちと関わりたいというところから、何ができるかを考えさせられました。地元でよりよい選択ができるよう、PR できればと思います。



## ボランティア担当職員研修講座

令和7年7月4日(金)13:00～15:30 県総合社会教育センター 受講者160名

### 1 内容

【講義】「この地域が大好き！」

～先人から今、そして未来へ想いをつなぐ～

講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科保育専攻  
准教授 棟方 梢 氏



【パネルディスカッション】「地域とともにつなぎ、つながりつづけるボランティア活動」

〈コーディネーター〉青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科保育専攻

准教授 棟方 梢 氏

〈事例発表〉

ボランティア書道教室俊文書道会

代表

青森県立弘前聾学校

校長

西里 俊文 氏

日本赤十字社青森県支部 事業推進課

主事

岩井 雄太郎 氏

【講義要旨】

- 今の私たちの地域活動があるのは、先人たちの活動の賜物であり、それを大切に育てながら、未来の子どもたちに何を残し伝えていくのか。私たちの役割はそこにある。
- 体験活動とは、体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として行われるものであり、「意図的・計画的に提供される活動」である。幼少期から青年期まで、多くの人と関わりながら体験を積み重ねることにより、社会を生き抜くために必要となる基礎的な能力を養う効果がある。
- 地域活動を継続、継承していくには、大人が感動する姿を魅せること、大人が率先して楽しむ姿を魅せること、「できる人が、できるときに、できることを、できる範囲で」楽しみながら活動することが重要である。

### 2 受講者の感想

- ・楽しみながら無理なく活動できるもの、地域の中で好きなもの、興味あるものを見つけ、やりがいを見出すことで、つながり続ける活動となると感じました。入り口、きっかけを提供していただけるよう工夫していきたいと思います。
- ・三人の先生の発表を聞き、とても勉強になり、心が温かくなり、感動しました。私も自分のできる範囲で、地域ボランティア活動に参加していきたいと思います。
- ・様々なボランティアの事例を聞いて、視野が広がりました。



## 第1回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

西北地区：令和7年6月17日（火）つがる市生涯学習交流センター 参加者12名

三八地区：令和7年6月12日（木）八戸市総合教育センター 参加者20名

### 1 内容

【講義】「青森県の家庭教育の現状と展望」

県総合社会教育センター 教育活動支援課長

【講義】「家庭教育支援者の役割・心構え」

講師 特定非営利活動法人

十和田NPO子どもセンター・ハピたの

代表理事 中沢 洋子 氏



【経歴】

平成17年に特定非営利活動法人十和田NPO子どもセンター・「ハピたの」を立ち上げ、平成22年には、コミュニティカフェ「ハピたのカフェ」をオープン。カフェから～地域で子どもを育てる～を起点とし、子どもたちが、社会の中で自分らしく生きぬいていくための事業を展開している。

平成24年には、「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」の内閣府特命担当大臣表彰、平成25年に、青森健康づくり奨励賞、あおもりコミュニティビジネス表彰・青森県知事賞を受賞している。また、平成25年からは、8年間「青森県教育委員」を務めた。

【講義趣旨】

#### 「青森県の家庭教育の現状と展望」

- ・2025年3月、少子化の進行、こどもの貧困、育児不安などの複合的課題に対応するため、こども・子育て家庭を社会全体で支える仕組みづくりを目的とした「青森県こども計画」が策定された。
- ・今後の家庭教育支援のあり方として、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援や支援者の育成、地域でのネットワーク形成が必要となってくる。

#### 「家庭教育支援者の役割・心構え」

- ・家庭環境の複雑化で社会とつながりにくい子どもたちが増加。だからこそ、地域とのつながりが重要である。
- ・子どもとの関わりの中で、とことん子どもの話を聞くこと、子どもの力になること、子ども自身が素の自分でいられることが大切である。
- ・子どもたちがたくさんの地域の大人たちと出会うことで「人とかかわり」や「あたたかなつながり」を学ぶことができ、自ら考え、自ら判断し、責任をもって行動する、「社会で生きて働くための力」を身につけることができる。

### 2 受講者の感想

- ・地域で子どもの育ちを支えたいという中沢さんの想いとそのために行動されている姿に感銘を受けました。関わることで子どもたちの力になることを学んだので、あきらめずに子どもたちが沢山の地域の大人たちに出会う機会を作りたいと思います。
- ・子どもが夢を描ける社会作りを大人たちが作らなければと話を聞いて感じました。子どもたちが目まぐるしく変わる時代を生き抜く心を鍛えるためにも、たくさんの経験をさせたいと思いました。
- ・とっさに「ダメ」「やめて」と出てしまう自分があるので一呼吸おいて「どうしてそうなの？」と聞いてみようと思います。

## 第2回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

西北地区：令和7年7月10日（木）つがる市生涯学習交流センター 参加者10名

三八地区：令和7年7月16日（水）八戸市総合教育センター 参加者22名

### 1 内容

【講義】「子どもと保護者に寄り添う支援とは」

講師 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科  
教授 差波 直樹 氏

【演習】「あおもり親楽プログラムⅠ」

進行 県総合社会教育センター職員



### 【経歴】

北海道教育大学を卒業後、札幌市立幼稚園3園に17年間勤務。平成26年から八戸学院短期大学幼児保育学科講師として勤務し、現職に至っている。大学では、「保育者の関わりと保育の質」等を主たる研究テーマとし、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との連携と接続について研究している。

また、長きにわたる幼稚園教諭の経験を踏まえ、「幼児期の教育」についての講義や、子どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ」ことのできる遊び場・プレーパークを学生と一緒に八戸地域で展開している。

### 【講義趣旨】

#### 「子どもと保護者に寄り添う支援とは」

- ・本県はもとより国全体でも、子どもの出生率の低下が止まらないという現実がある。
- ・保護者の意識について、常勤者やパートタイムなどの働く母親の間で、子育てに対して否定的な感情が増えてきている。
- ・現代の子どもや子育てを取り巻く状況においては、課題が山積しており、子ども基本法の施行（令和5年4月）、児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）が整備された。
- ・生涯にわたる人格形成の基礎を築くこと、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指すことが大切である。
- ・子どもや保護者を支えるために、その思いや考えに耳を傾けて丁寧に「聴く」こと、そして支援者がそれを「思う（感じ取る）」こと、両者が抱えている課題の解決の方向性や方法を、相手の目線に立って「共に考える」ことが大切である。

### 2 受講者の感想

- ・年々人口が減っている中、幼児期の教育は大事なことだと改めて感じました。保護者の中には、子育てに悩んでいる方もいるので、保護者の話を聴き、一緒に考えていけるようにしたいと思いました。
- ・「一緒に考えます」のスタンスが安心感につながるというのを実感しています。子育ては迷ってしまうのが本音だと思うので、すごく心強い言葉だなと感じました。さらに、当事者の自己知覚へと導いていく言葉にもなり、子育ての自信につながっていくのかなと思いました。
- ・幼児期の教育（家庭教育も含め）は、生涯にわたり人格の形成の基礎を培う重要なものであるのに、今の親は子育てにとっても悩んでいるように思います。悩みながら子育てをしていることは、子どもにも伝わっているのではないのでしょうか。改めて傾聴することの大事さを再確認しました。

## 第3回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

西北地区：令和7年8月27日（水）認定こども園育実幼稚園

7名

三八地区：令和7年8月20日（水）八戸ポータルミュージアムはっち

24名

### 1 内容

【見学・講義】「家庭教育支援チーム・子育て支援団体等見学」  
〈西北地区〉

講師 学校法人 平田学園 認定こども園 育実幼稚園  
理事長 平田 昌子 氏

〈三八地区〉

講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット こどもはっち  
代表理事 平間 恵美 氏



#### 【講義要旨】

〈西北地区〉

- ・子育て支援事業として、月に1回「にこちゃんクラブ」を実施。親と子、子ども同士、大人同士の交流の場や安心して過ごせる環境を提供している。また、臨床心理士を配置し、専門家によるお悩み相談も行っている。
- ・スマートフォンの普及により、生活が便利になっている一方、子育てにおいては使い方を考える必要がある。使用しながらではなく、忙しい中でも手を止めて、子どもの目を見て話す、子どもの声に耳を傾けることが子どもの存在を認めることにつながる。また、様々な体験活動を通して子どもと向き合い、触れあうことで、子どもの五感を伸ばすことにつながる。

〈三八地区〉

- ・2011年、八戸市から受託を受け「こどもはっち」を開設。乳幼児・双子・転勤ママ・父親を対象にした子育てサークル等、多岐にわたり行っている。また、発達に特徴のある親子を対象にした「オレンジデー」、あずかり保育事業「おるすばん」、出張・訪問相談「おたずね隊」も行っている。
- ・「見ようとしなければ何も見えない」見た目は変わらずとも、悩みや不安を抱えている保護者、家庭環境の複雑化で社会とつながりにくい子どもたちが増加している。だからこそ、地域とのつながりが重要である。未来ネットは、地域のつながりを広げ、学び合い、その力を実行力に変えて活動している。

### 2 受講者の感想

〈西北地区〉

- ・子どもの遊びを通して親同士、親と職員のつながりをもてる貴重な場だと感じました。職員の笑顔や対応が素敵で、利用しやすい雰囲気でした。講話では、特に「孤立させない」という言葉が心に響き、個々に目を向けることの大切さを改めて考えることができました。

〈三八地区〉

- ・こまっちサークルの様子では、親子の触れ合いを取り入れ、楽しくテンポよく明るい雰囲気の中で活動していて参考になりました。また、自分の核を持つ（目標・目的）、学び・気づき・行動するなど平間さんの考えに共感することが多くありました。



## 第4回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

西北地区：令和7年9月12日（金）つがる市生涯学習交流センター松の館 受講者11名

三八地区：令和7年9月18日（木）八戸市総合教育センター

受講者23名

### 1 内容

【講義】「気になる子どもの理解と対応」

講師 青森県発達障がい者支援センターDoors

センター長 分枝 篤史 氏

【演習】「あおもり親楽プログラムⅡ」

進行 県総合社会教育センター職員



【経歴】

6年間、宮城県仙台市の知的障害者更生施設で勤務したのち、平成23年に社会福祉法人 豊寿会 妙光園に勤務。妙光園では、放課後等デイサービスで自閉症支援や管理者等を歴任し、平成26年に社会福祉法人 豊寿会 理事長、妙光園 園長に就任。平成28年より、社会福祉法人 豊寿会 青森県発達障がい者センターDoors センター長に就任している。

法人経営・運営の他に、三八管内スクールカウンセラー等を兼任し、発達に偏りのある当事者及び保護者の相談の他、学校現場や保育園等で子どもとの関わり方に関するコンサルテーション、発達障害や子どもの発達、子育てに関する講演等を行っている。

【講義要旨】

「気になる子どもの理解と対応」

- ・子どもとは、「脳や身体が発達途上にある存在」である。
- ・子どもと関わる上で最も大切なことは、子どもの目線（目と耳と心）で物事を観察し、考えることである。
- ・子どもたちが求めているのは専門的な技術よりも、母性的な関わりである。指導しても何度も問題行動を繰り返す子どもたちの背景には、乳児期、幼児期、児童期で獲得すべき発達課題とテーマを乗り越えられなかった、親に安心して気持ちを出せなかった等の要因があると考えられる。
- ・「発達障害」とは日々の生活の中で、多くの他者とは違う感じ方や考え方をすることで不安や緊張・孤独等を常に感じ、生活がしづらい状態をいう。人と違う感じ方や考え方（発達に凸凹あり）でも適応できていれば「発達障害」の状態ではないし、病気でもない。  
※発達の凸凹の代表的な特性には、自閉スペクトラム症（ASD）、注意欠如・多動症（ADHD）、限局性学習症（SLD）などがある。
- ・「気になる大人」から「気かけられる大人」へ。大人の理想に近づけようとするのではなく、ありのままの子どもを受け止め、理解することが大切である。

### 2 受講者の感想

- ・これからは気かけられる保育者になれるようにしたいと思いました。1人ひとりの子どもの特性を把握して、子ども達のより良い幸せな楽しい時間が過ごせるよう支援して行きたいと思えます。
- ・子どもの行動に対する理由を理解しようとする気持ちが、自分には不足していたと気づかされました。子どもに対する接し方のみならず、保護者への接し方や連携の方法も学ぶことができました。
- ・自分もいつも「ちゃんとしなさい」や「それはダメ」と毎回同じ事を言っている感じがします。これからは、もう少し子どもと向き合い、声を聞いてあげて安心して過ごせる場所を作って行けたら良いと思いました。

## 第5回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

西北地区：令和7年10月31日（金）つがる市生涯学習交流センター松の館 受講者11名

三八地区：令和7年10月15日（水）八戸市総合教育センター 受講者22名

### 1 内容

【講義】「今、親が悩むこと～親子のコミュニケーション～」

講師 岩手大学 人文社会科学部

准教授 はぎだい みき 萩臺 美紀 氏

【演習】「あおもり親楽プログラムⅢ」

進行 県総合社会教育センター職員

### 【経歴】

岩手大学人文社会科学部を卒業後、東北大学大学院教育学研究科博士課程を修了。在学中から臨床心理士として教育や医療の現場で相談活動に携わっている。

2020年から5年間、柴田学園大学生生活創生学部子ども発達学科に勤務し、2025年からは、岩手大学人文社会科学部准教授として、臨床心理学や家族心理学に関する授業、研究指導を行っている。研究活動では、不登校・ひきこもりの子どもを抱える家族に焦点をあて、問題解決に効果的な家族のコミュニケーションについて研究をしている。

専門は、臨床心理学、家族心理学。



### 【講義要旨】

- ・親子のコミュニケーションに関する悩みとして多いのは、子どもへの注意（生活習慣・学習等）、子どもの反抗、コミュニケーションが少ない、不登校やひきこもり、発達に関する悩みである。
- ・子どもの問題や短所に意識が向きがちであるが、例外（問題が比較的ましな時）を探す視点をもつことで解決への糸口へとつながる。
- ・「人間は多面体」という意識をもち、子どもや友達の輝く側面を見つけ、褒めることでその子の力を引き出すことができ、問題を解決する基礎を養うことができる。
- ・健康的な家族の形とは、世代間の境界が明確であることである。縦のつながりより、横のつながりが強いことが望ましく、重要なことは祖父母ではなく、両親が決めることが大切である。
- ・家族集団の各ライフステージでの発達に伴い、生じる葛藤や課題を乗り越えていくことで家族が成長していく。その都度、家族のルールを変更・再構築することが必要である。

### 2 受講者の感想

- ・子どもと関わるときにどうしても問題を解決したい気持ちが強くなってその部分だけを見てしまいましたが、違う視点、違う角度からも見るのが大切だと学びました。
- ・今まで、原因を探して何とか解決しようとしていましたが、原因を探さないという新しい視点を学び、パズルのピースのようにはめるのが全てではないと思いました。もう少し自分の中の糸を緩めて、相手や保護者への支援を考えていこうと思います。
- ・直接的な原因を探すよりも例外（問題がちよっとましな時）を探してみる。家族のルールを変更して乗り越える、人間は多面体…。新しい知識がたくさんで有意義な時間でした。

## 第6回 あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

西北地区：令和7年11月19日（水）つがる市生涯学習交流センター松の館 受講者11名

三八地区：令和7年11月12日（水）八戸市総合教育センター 受講者16名

### 1 内容

【演習】「あおもり親<sup>おやがく</sup>楽プログラムⅣ」

進行 県総合社会教育センター職員



あおもり親楽プログラムとは、子どもの理解や親子の関わり方等、子育てに必要な知識やスキルについて、親同士が身近なエピソードや活動を通して話し合い、主体的に学ぶ参加型の学習プログラムです。

当講座の演習では、受講者が「あおもり親楽プログラム」にあるエピソードの中から実践したいエピソードを選び、全4回の演習を受講者が交替で進行役を務めることで、数多くのエピソードを体験することができました。支援者と研修会参加者双方の立場を体験し、「あおもり親楽プログラム」の理解と支援者としてのスキルの獲得につながりました。



### 2 受講者の感想

- ・自分たちで演習を行うため、他の方々の演習やアドバイザーの助言を参考にしながら勉強させていただきました。アイスブレイクの内容も数多く知ることができて、大変参考になるものばかりでした。
- ・プログラムを通して、決して答えは一つだけではなく、様々な考えがあることに気づかされました。一人では解決できないときは周りに頼ってみることもひとつだと思いました。
- ・子育てをする上で大切にしたい視点や考え方について学ぶことができたと感じました。また、自身の仕事でも活かすことができる部分がたくさんありました。新しく、受講者同士、地域で活躍しているアドバイザーの方とのつながりもできて、とても楽しい講座でした。

## あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ研修

令和7年9月28日（日）県総合社会教育センター 受講者 9名

### 1 内容

【演習】「あおもり親楽プログラム」

いい一日は、いい「おはよう」から！

～家庭でのあいさつ～

講師 あおもり家庭教育アドバイザー

えびさわ ゆうこ 氏  
蛭澤 祐子 氏  
えんどう やよい 氏  
遠藤 弥生 氏



#### 【あおもり親楽プログラムとは】

子どもの理解や親子の関わり方等、子育てに必要な知識やスキルについて、親同士が身近なエピソードやワークをとおして話し合い、主体的に学ぶ「参加型の学習プログラム」です。親同士が話し合いを進めていく中で、それぞれが自分自身の課題に気づいたり、親としての役割やあり方について考えたり、整理することをねらいとしています。

#### 【演習概要】

あおもり親楽プログラムの進行役を務める、あおもり家庭教育アドバイザー。実践経験の多いアドバイザーの演習を体験することで、進行役としての進め方や大事なポイント等を学びました。

また、派遣を想定した演習計画書をグループで話し合いながら作成し、全体で共有しました。計画を立てる際の気をつけるべき点やたくさんのアイディアに触れることができ、今後の活動へつながった研修となりました。



### 2 受講者の感想

- ・実践として、シチュエーションに合わせてどうやってプログラムを進めていくのか考えて組むのはとても勉強になりました。なかなか実践する場がないまま、今までできていたのでこの機会があってとても良かったです。
- ・アドバイザーの皆さんの存在、情報共有の場はとても心強いです。アドバイザーのみなさんの意見や考えに触れることが一番の学びになります。
- ・講義、演習ともにたくさんの学びがありました。あおもり家庭教育アドバイザーの方による演習では、プログラムの設定の仕方や進行方法、雰囲気作りなど大変参考になりました。

## 家庭教育相談事業

### 1 事業目的及び概要

子育て中の不安や悩みを軽減するため、乳幼児から高校生までの子をもつ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う。

### 2 令和7年度事業実績

〈事業内容及び結果〉

#### (1) 家庭教育相談

ア 対 象 乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族

イ 実施方法 電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)

13:00~15:00

メール相談・24時間受付

ウ 場 所 県総合社会教育センター電話相談室

エ 対応内容 発育・発達、しつけ、対人関係などのこどもに対する悩みや家庭教育全般

オ 相談件数 19件(電話相談16件、メール相談3件) ※2月末現在

#### (2) 家庭教育関連相談機関合同連絡会議の開催

ア 実施回数 2回(10月/1月)

イ 関係機関 学校教育課、総合社会教育センター、総合学校教育センター、子ども家庭支援センター

ウ 内 容 各機関事業概要の説明・情報交換(10月)、研修会(1月)

研修会「講義」こどもが自分らしく育っていくために

～声の向こう側にある想いに寄り添う～

[講師] 青森県発達障がい者支援センターDoors

センター長 分枝 篤史 氏

〈成果〉

- ・相談者の悩みに対し、寄り添いながら冷静に対応することができた。
- ・家庭教育関連の相談機関との情報交換を行ったことで、より連携しやすくなった。
- ・講師を招いて研修会を実施したことで、より専門的な知識を得ることができ、相談員の資質向上につながる研修会となった。

### 3 研修会の感想等

- ・自分が子育てをしているときに、この講義を聞いたかっと思うくらい、子育てに大事な要素がいっぱい詰まった内容でした。改めて、相談員の仕事の難しさを実感しました。今回の講義の内容を活かし、今後の業務をしていきたいと思えます。



## 家庭教育支援動画等制作普及事業

### 1 事業目的及び概要

青森県民の子育てに対する不安や悩みを解決する糸口とするため、県の家庭教育支援に関する取組について情報発信し、広く普及啓発するものである。

### 2 令和7年度事業実績

〈事業内容及び結果〉

(1) 家庭教育支援をPRするキャラクターデザイン等の制作

ア キャラクター名 シャメルン、もりのん

イ デザインパターン 基本・応用パターン、喜怒哀楽パターン

(2) PR動画製作

(3) 生涯学習フェアにおけるブース展開

ア 開催日時 9月27日(土) 10:00~15:00

イ 内容 フォトスポット、お絵かきバルーン、防災コーナー、VR体験、パネル展示、読み聞かせコーナー、クイズ等

(4) 広報業務

ア CM放映

(ア) 放映期間 1月5日~2月28日

(イ) 本数 20本

イ ノベルティ(ポケットティッシュ)の製作・送付

(ア) 製作数 12,000個

(イ) 送付先 県内小児科医院41箇所

(ウ) その他 当センター主催講座や派遣等において配付

〈成果〉

・親しみやすいキャラクターが完成したことにより、家庭教育がより身近なものとして捉えやすくなり、新規の「あおもり子育てネット」利用者が増えた。

### 3 成果物等



[シャメルン]



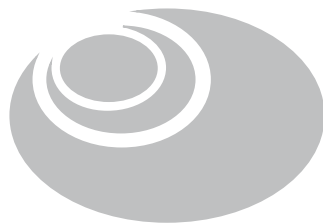
[もりのん]



[生涯学習フェア]



心豊かに 笑顔あふれる 青森県総合社会教育センター



《青森県総合社会教育センターシンボルマーク》

人づくりの拠点として、県民の生涯にわたる学習の輪が、和を持って限りなく広がっていくことを願いとしています。家庭、学校、地域社会が一体となる姿を表現するとともに、色を緑色とし、伸びゆく緑豊かな青森県を表しています。

〒030-0111 青森市大字荒川字藤戸 119-7

TEL 017-739-1253 (育成研修課)

017-739-1270 (教育活動支援課)

FAX 017-739-1279

HP <https://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

